

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

アンリツ株式会社

2021年8月



東証第1部 : 6754

<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 中期経営計画 GLP2023
2. 事業概要
3. 通信計測事業
4. PQA事業
5. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要

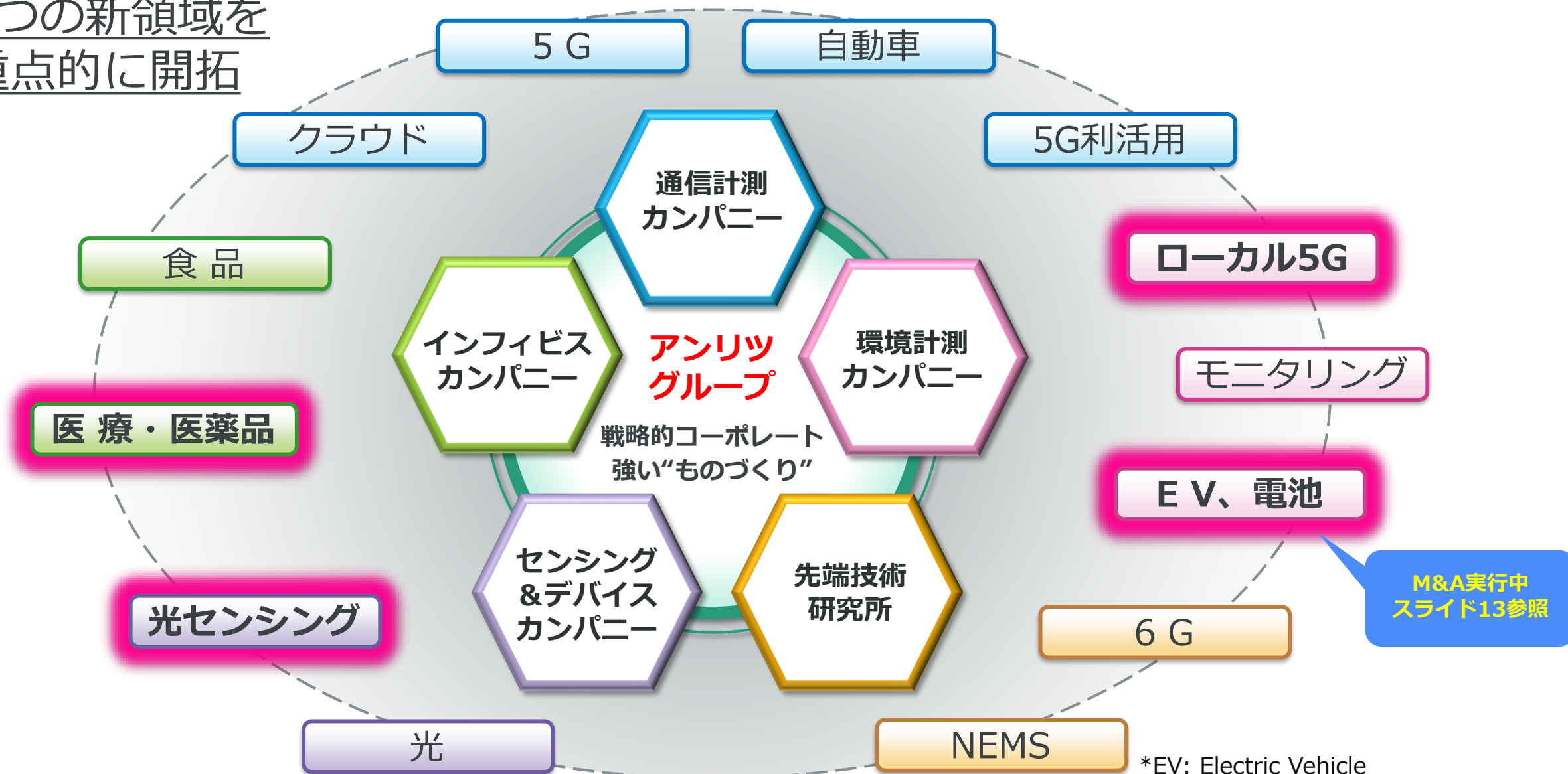
1. 中期経営計画 GLP2023

経営ビジョン：「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



1-2. GLP2023重点分野

4つの新領域を
重点的に開拓



*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

*EV: Electric Vehicle

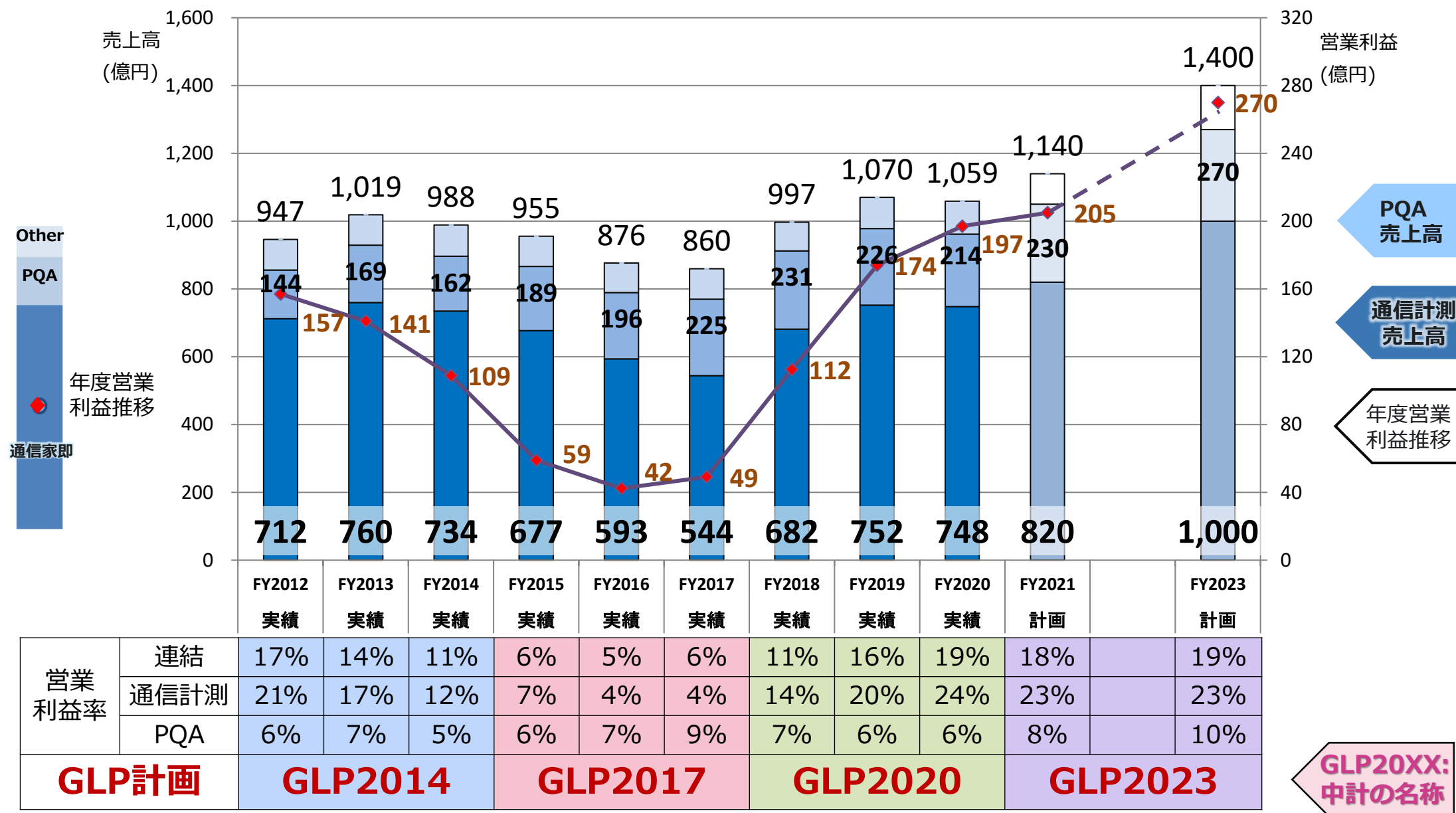
*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

1-3. 売上高・営業利益計画 (1/2)

指標		GLP2023		
		FY2020	FY2021	FY2023
売上高		1,059 億円	1,140 億円	1,400 億円
営業利益		197 億円	205 億円	270 億円
営業利益率		19 %	18 %	19 %
当期利益		161 億円	162 億円	200 億円
ROE		16 %	14 %	15 %
T&M 事業	売上高	748 億円	820 億円	1,000 億円
	営業利益	177 億円	185 億円	230 億円
	営業利益率	24 %	23 %	23 %
PQA 事業	売上高	214 億円	230 億円	270 億円
	営業利益	13 億円	18 億円	27 億円
	営業利益率	6 %	8 %	10 %

(参考) GLP2023想定為替レート： 1米ドル=105円、1ユーロ=125円

1-4. 売上高・営業利益計画 (2/2)

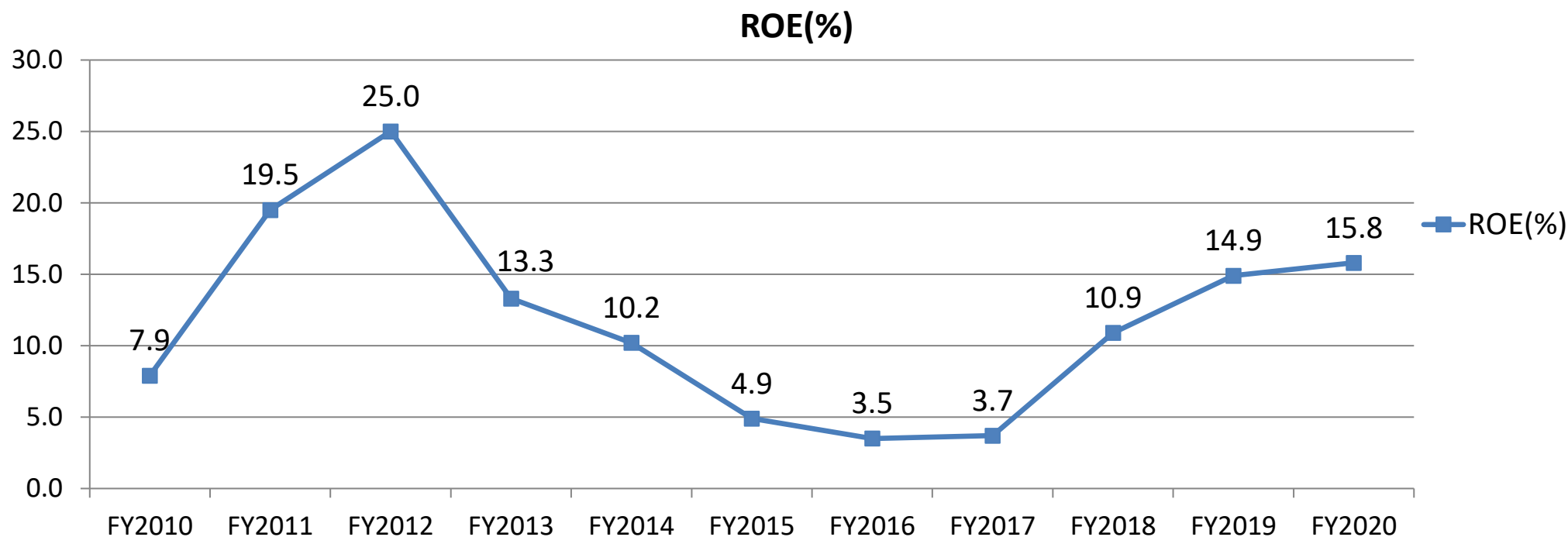


1-5. GLP2023 : 財務戦略 (1/3)

- ◆ 成長性・収益性・効率性の重視
- ◆ 成長に向けた投資を強化
- ◆ 株主還元の充実

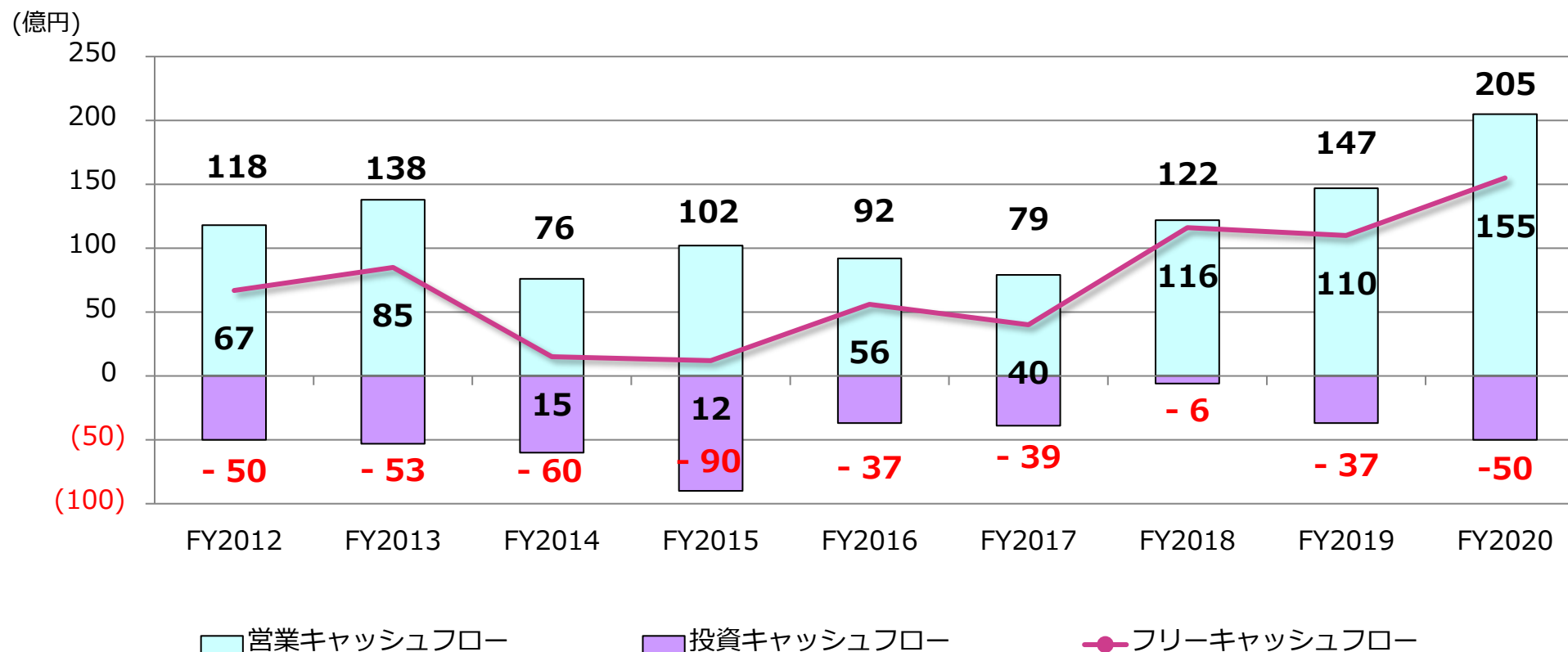
企業価値KPI

ROE $\geq$ 15%



◆ キャッシュフロー経営の推進

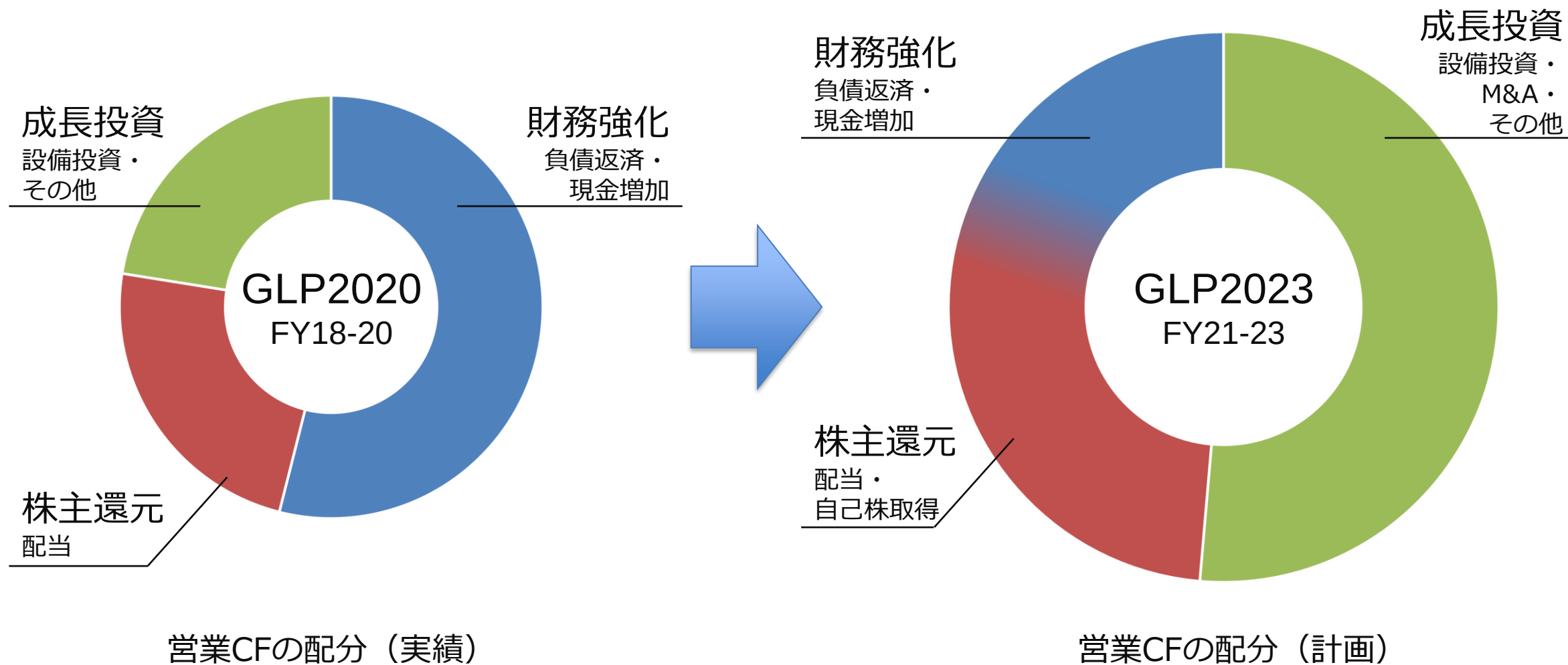
利益体質の強化と運転資本の効率化促進で営業CFを改善



キャッシュフローの推移

1-7. GLP2023 : 財務戦略 (3/3)

成長投資へキャッシュを重点配分



利益処分に関する基本方針

連結業績（当期利益）に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE）を上げることが基本とする

2. 連結配当性向30%以上を目標とする

3. 総還元性向を勘案した株主還元施策も機動的に行っていく

中期経営計画GLP2023において、「EV および電池測定」を重点的に開拓する分野の一つとして掲げた。業界屈指の高電圧・大電流・大容量の電気エネルギー制御技術や、業界を牽引するお客さまとの取引関係を持つ株式会社高砂製作所を、この分野を開拓するための中核と位置付ける。さらに、当社が計測事業で培ってきた試験システム構築技術やグローバルな事業基盤を活用することで、高度化とグローバル化が進むEV および電池測定の分野において、お客さまの試験ニーズに応えるとともに、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する。

対象会社詳細：

名称	株式会社高砂製作所
所在地	神奈川県川崎市高津区溝口一丁目24 番16 号
代表者	代表取締役 上杉 則彦
事業内容	電源、電子負荷装置、情報通信機器、通信制御機器、 およびそれらの応用システム製品などの研究開発・製造・販売
資本金	120 百万円
設立年月日	1950 年7 月25 日

日程：

契約締結日	2021 年7 月30 日
株式譲渡実行日	2022 年1 月（予定）

1-10. サステナビリティ目標 (SDGs)

E
環境

目標・取組

温室効果ガス削減に向けた 長期計画と取組

GLP2023:KPI

- 温室効果ガス（Scope1+2）：2015年度比23%削減
- 温室効果ガス（Scope3）：2018年度比13%削減
…2030年度で30%削減

自家発電比率の向上 (PGRE 30)

- 自家発電比率：13%以上（2018年度電力消費量を基準）
… 2030年ごろまでに30%程度まで高める

ダイバーシティ経営の推進

- 女性の活躍推進：女性幹部職比率15%以上
- 高齢者活躍推進：70歳までの雇用及び新処遇制度確立
- 障がい者雇用促進：職域開発による法定雇用率2.3%達成

S
社会

グローバルなCSR調達の推進

- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化：
3年累積10社以上
- CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、
教育1回/年以上

G
ガバナンス

グローバルなガバナンス力向上

- 取締役会の多様性の推進、社外取締役比率50%以上

海外子会社の内部統制構築推進

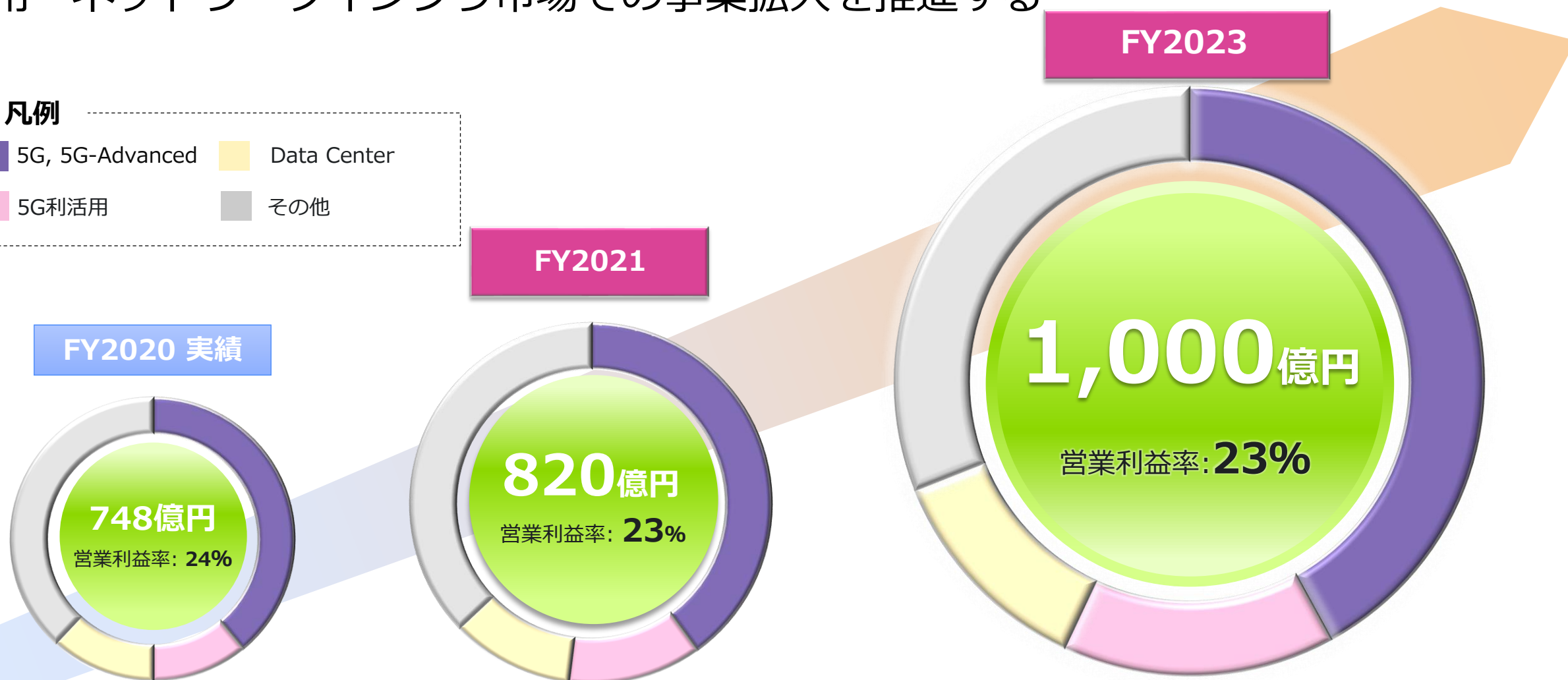
- 全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす

1-11. 通信計測事業：GLP2023売上高・営業利益計画

5Gピークに向けた3年間の需要をとらえ、スマホ・5G利活用・ネットワークインフラ市場での事業拡大を推進する

凡例

- 5G, 5G-Advanced
- Data Center
- 5G利活用
- その他



グラフはイメージ

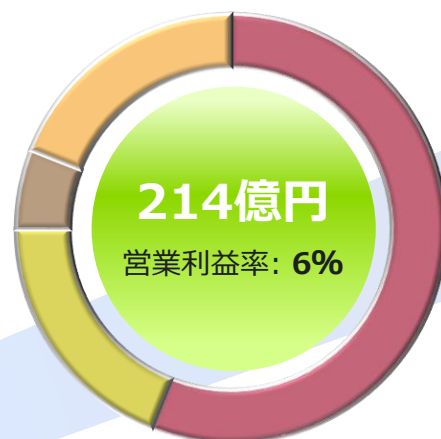
1-12. PQA事業：GLP2023売上高・営業利益計画

- ・お客様企業の重要課題を解消するソリューションの創造
- ・はかるを超える価値創造、世界各地ニーズに的確で迅速対応
- ・X線検査機の高度化、医薬品市場拡大と業務革新で利益体質

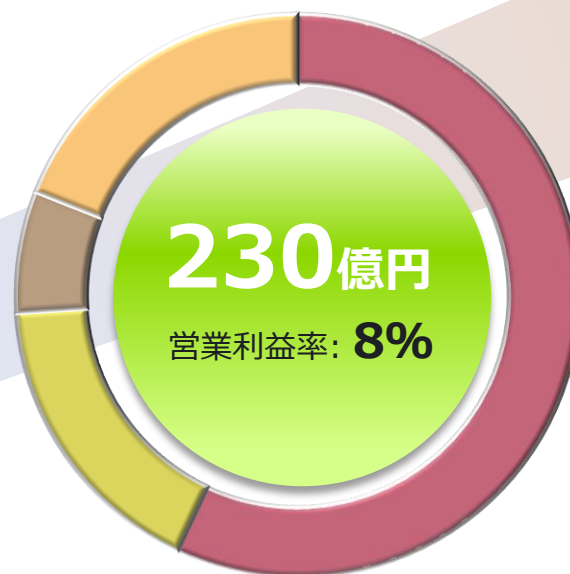
凡例



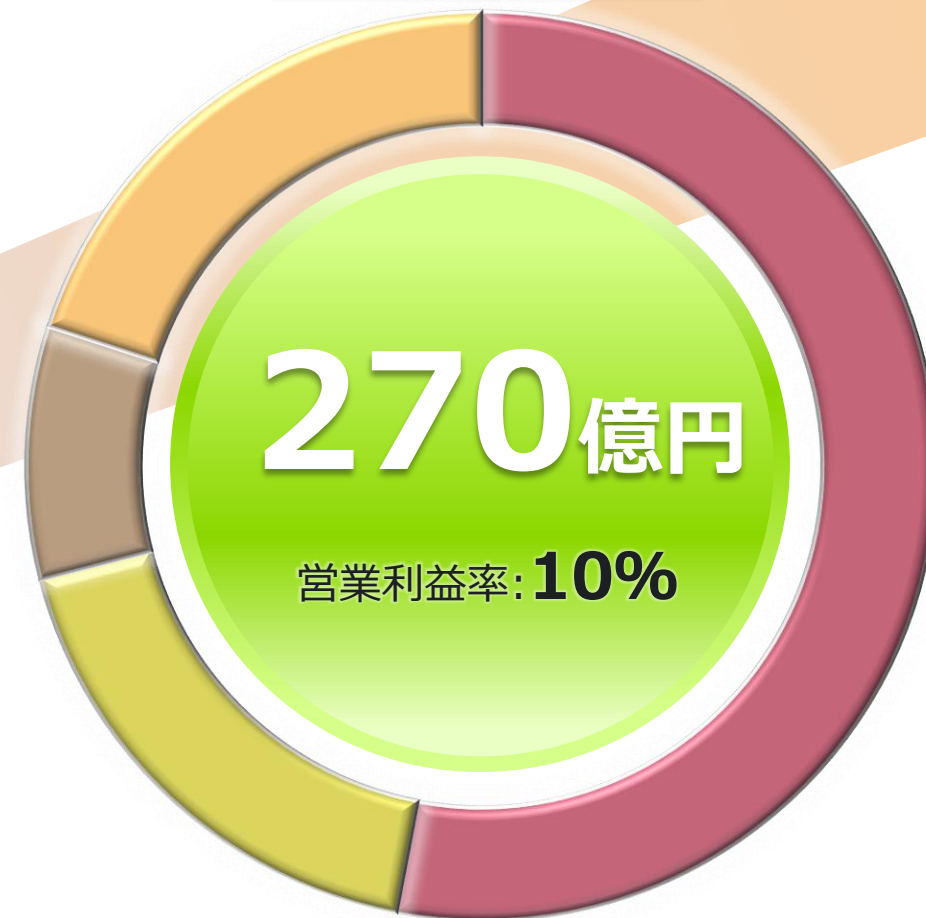
FY2020 実績



FY2021

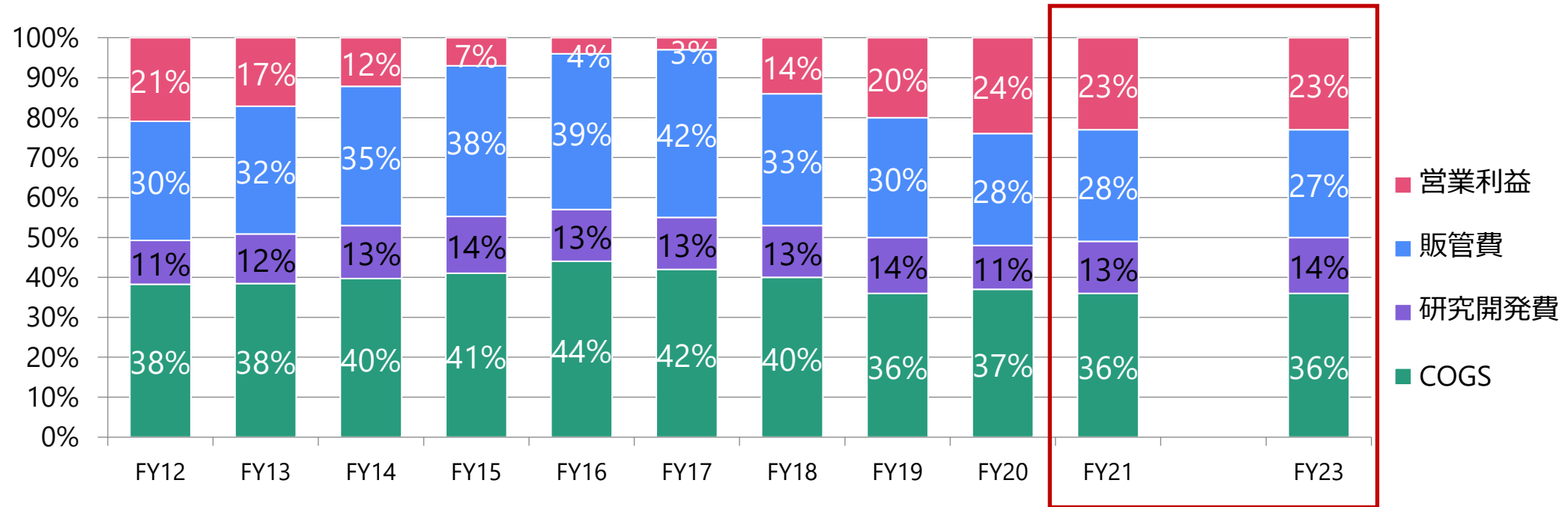


FY2023



グラフはイメージ

1-13. 通信計測事業：収益構造モデル



コスト構造の改善に向けて

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

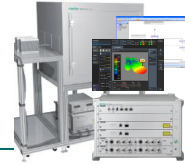
*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

2. 事業概要

2. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



▶ 環境計測

▶ センシング
& デバイス



(セグメント別売上比率)

2021年3月期 実績（連結）：1,059億円

通信計測 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

2022年3月期1Q 実績（連結）：238億円

通信計測 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2021年3月期 実績

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

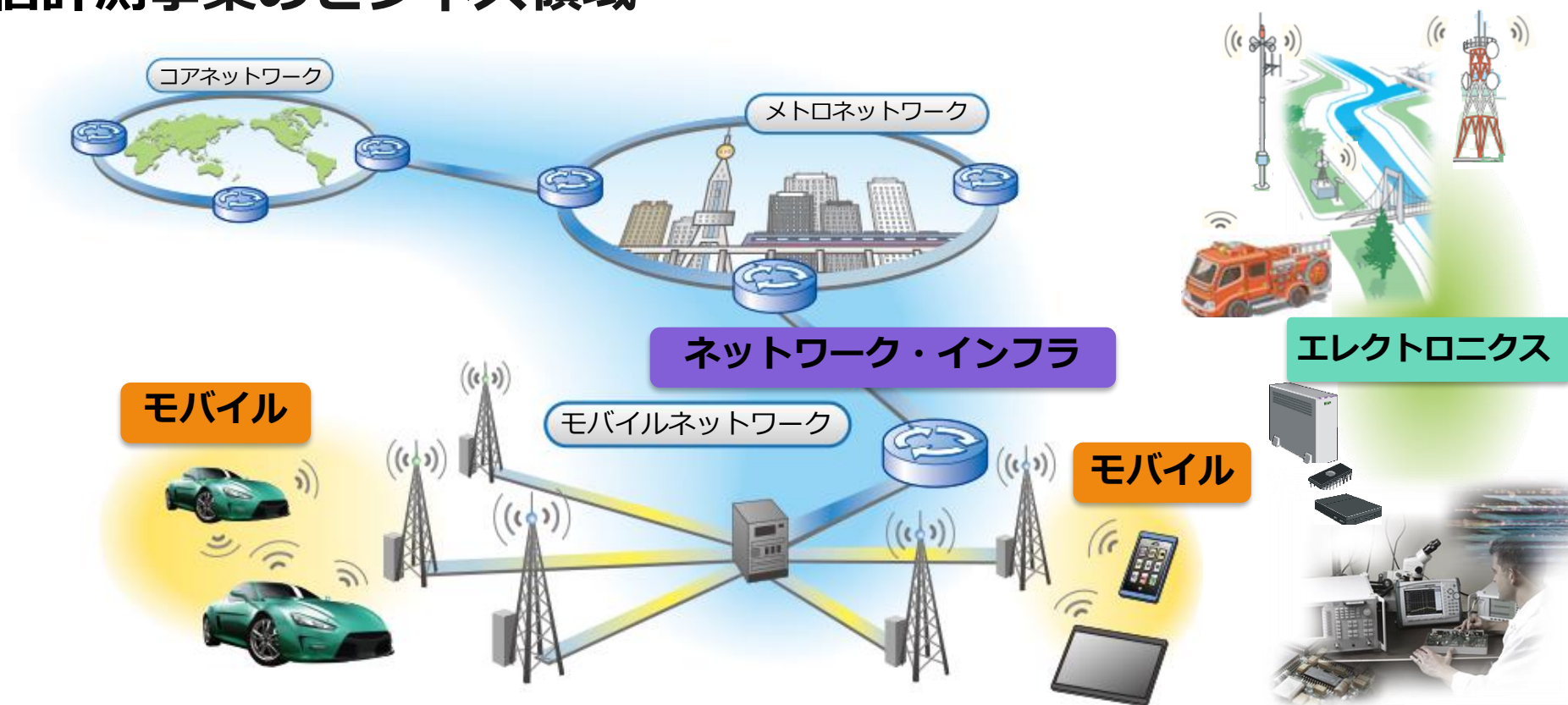
2022年3月期1Q 実績

日本 16%	アジア他 46%	米州 23%	EMEA 15%
--------	----------	--------	----------

通信計測事業：旧T&M事業 PQA：Products Quality Assurance

3. 通信計測事業

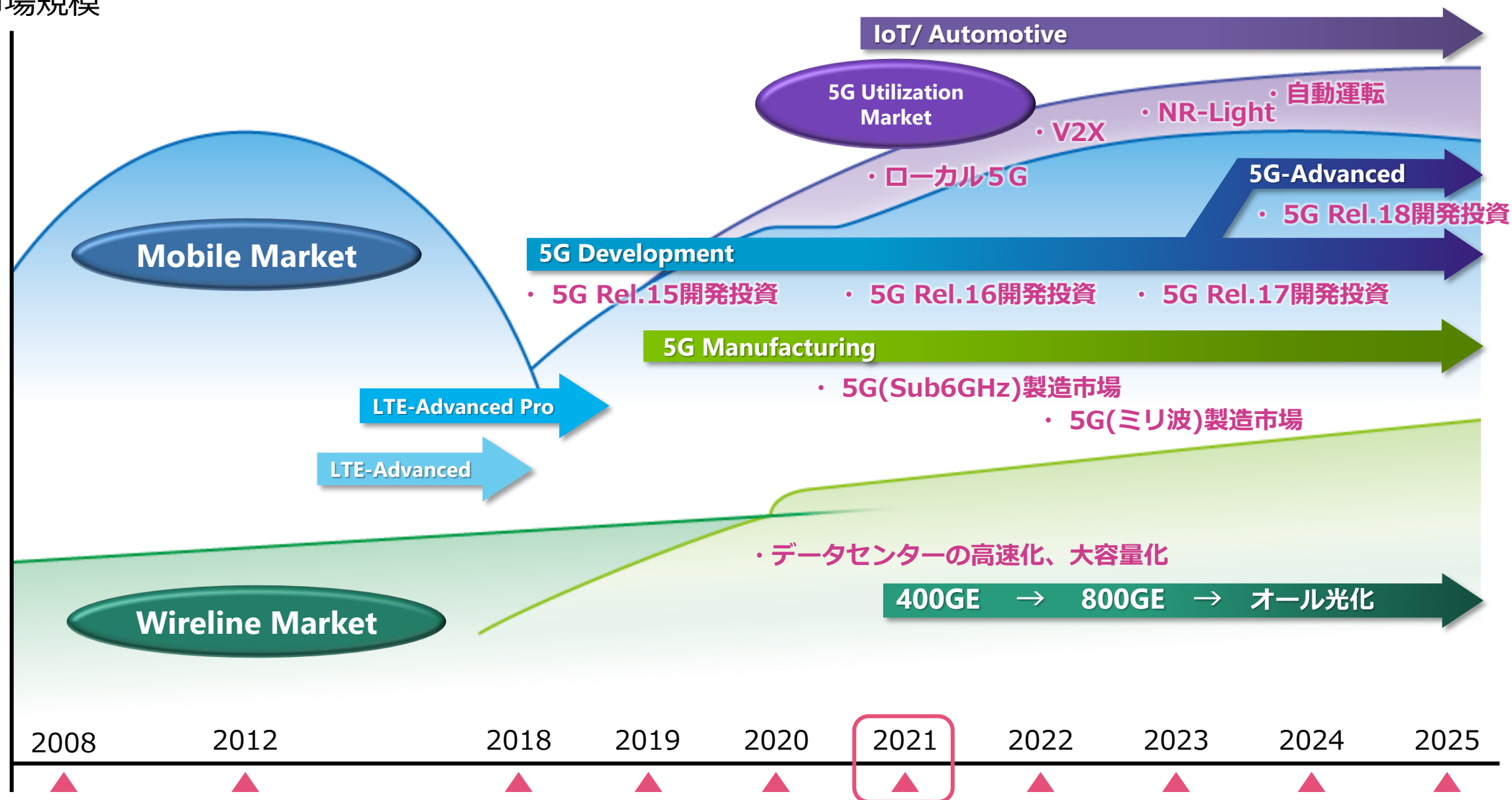
3-1. 通信計測事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(25%)		
無線通信分野	モバイル (59%)		
汎用分野	エレクトロニクス (16%)*		*電子部品等

3-2. 通信計測事業：計測市場トレンドと事業機会

市場規模



3-3. 世界の5G状況



欧州

Sub6 : ヨーロッパの5Gカバレッジが上向き。
2021年3月末でEU27か国中24か国で5G
サービス開始
ミリ波 : イタリア、フィンランドなどで周波数の
オークションが完了



中国

5G加入者は4億5,000万人（2021年5月末）
Sub6 : 基地局は20年末77万局設置済、
2021年中に60万局の増設を計画
ミリ波 : 北京オリンピック会場でトライアルを実施



東南アジア/オセアニア

Sub6 : 2020年中に豪州、タイ、フィリピン等で
5Gサービス開始
ミリ波 : 豪州では2021年5月にサービスを開始



韓国

5G加入者は1,584万人(2021年5月末)
Sub6 : 基地局は11.5万局設置済。人口カバー率90%超
ミリ波 : 2020年サービス開始予定が延期、開始時期未定



US

5G加入者は1,996万人（2020年12月末）
Sub6 : ベライゾンがCバンドを使うサービスを2022年
1Qに開始。2022年3月までに1億の人口を
カバーする計画
ミリ波 : ベライゾンは2021年末までに1.4万サイトを
3万サイトまで拡張

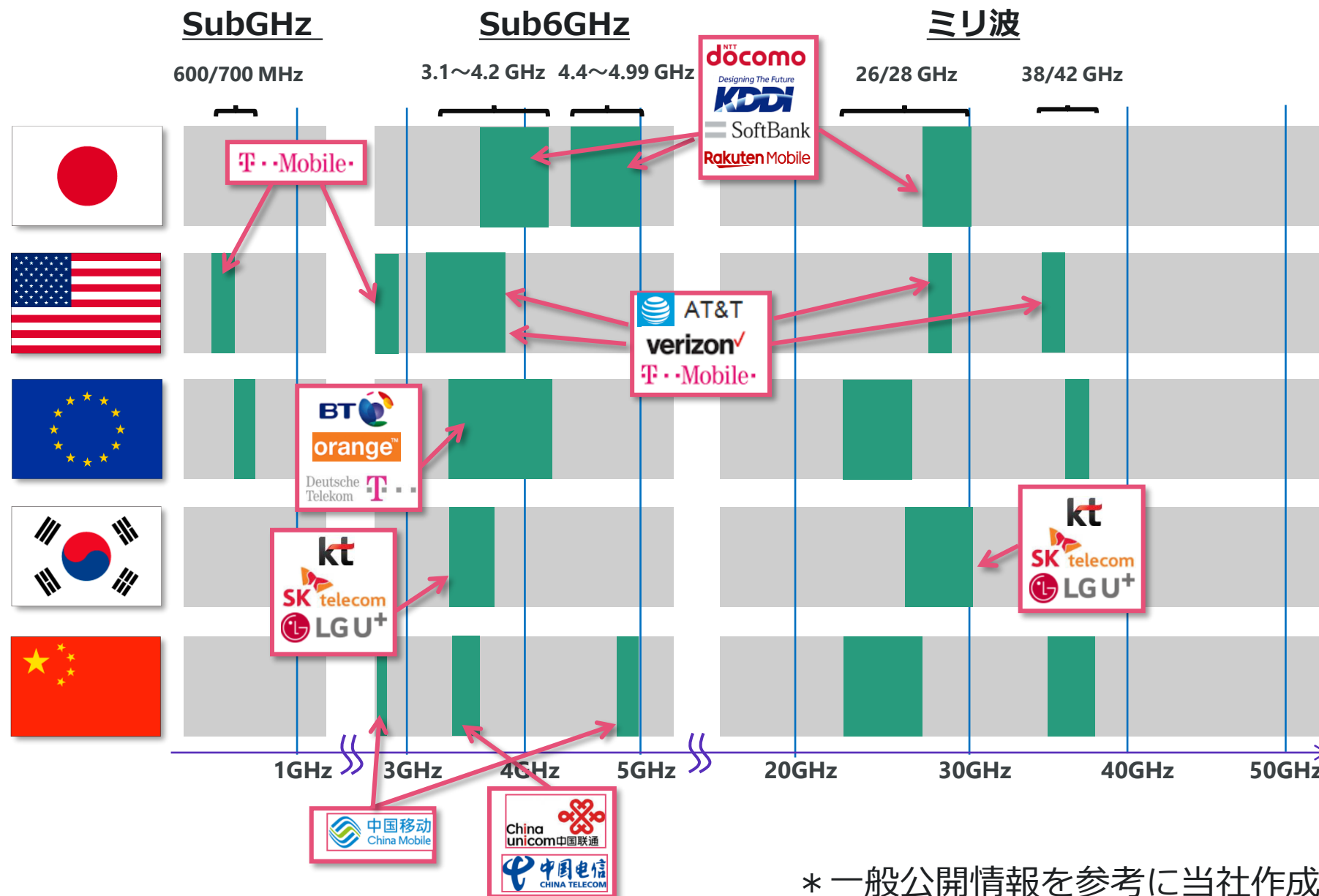


日本

5G加入者は1,419万人（2021年3月末）
Sub6 : 全国47都道府県の主要都市をカバレッジ
ドコモは2021年3月末までに基地局累計2万局
設置（LTEは25万局設置済み）
ミリ波 : キャリア4社が2020年後半からサービス開始済

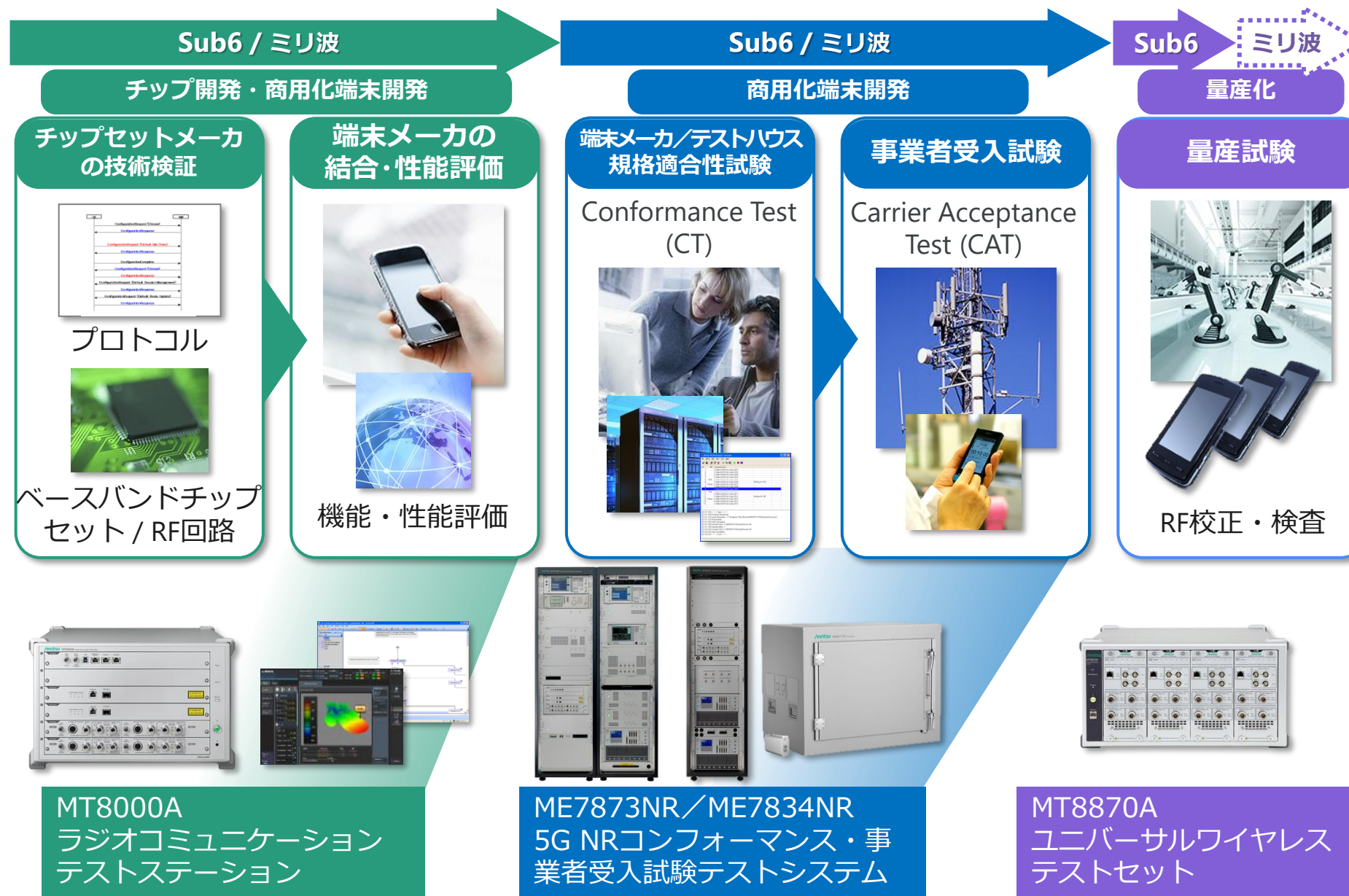
* 出所 : 一般公開情報を参考に当社作成
2021年7月時点

3-4. 各国の5G向け周波数

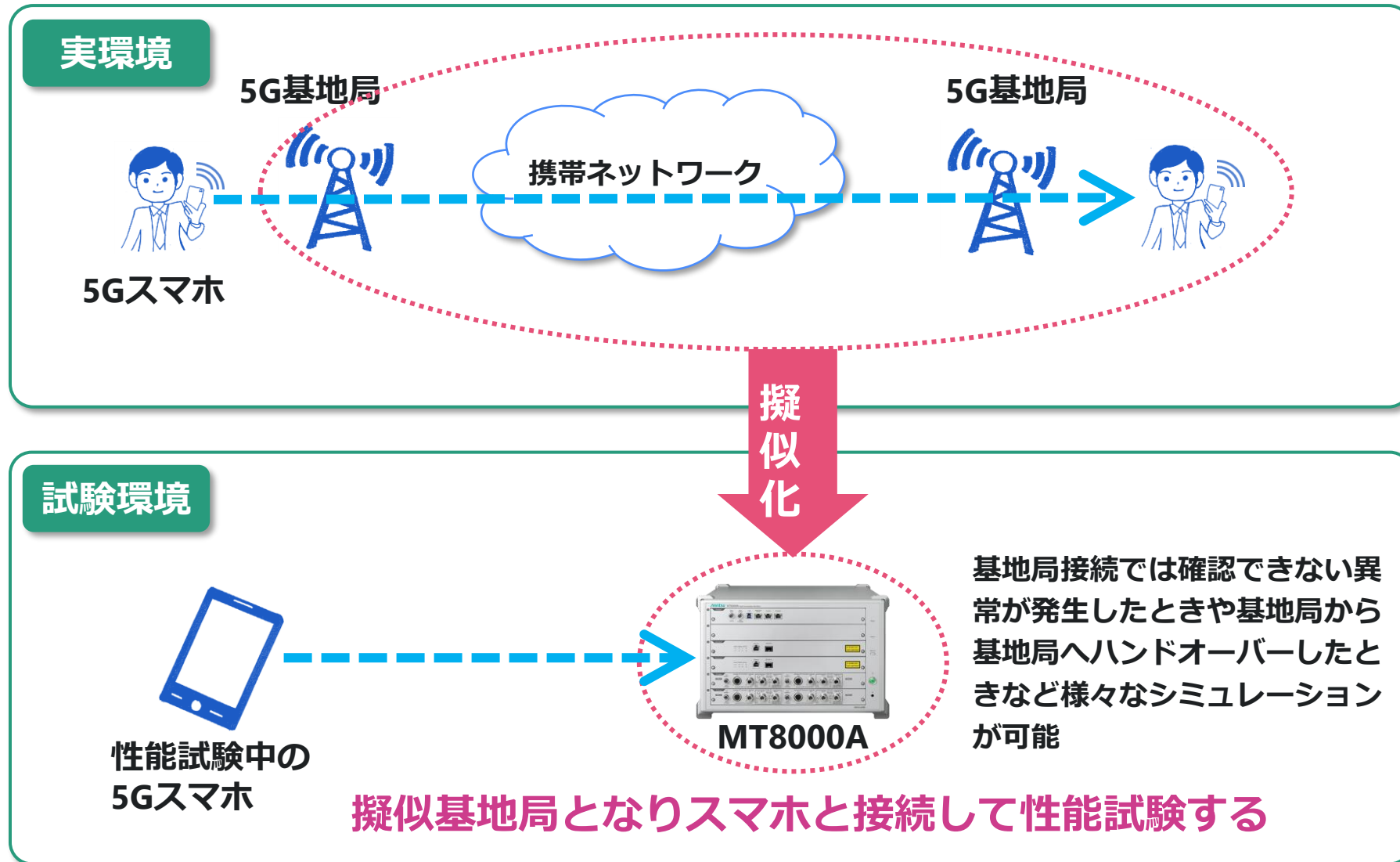


* 一般公開情報を参考に当社作成

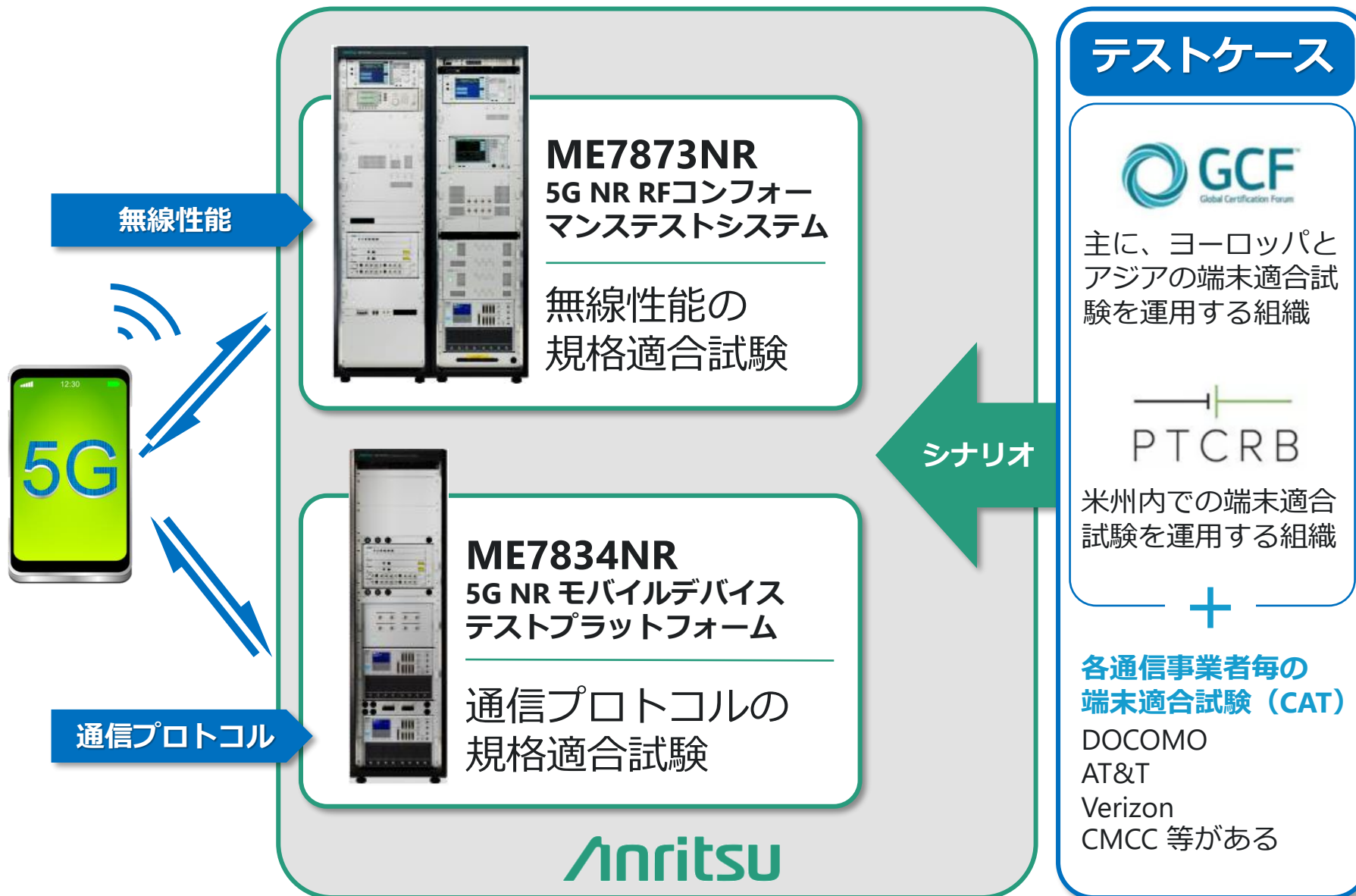
3-5. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション



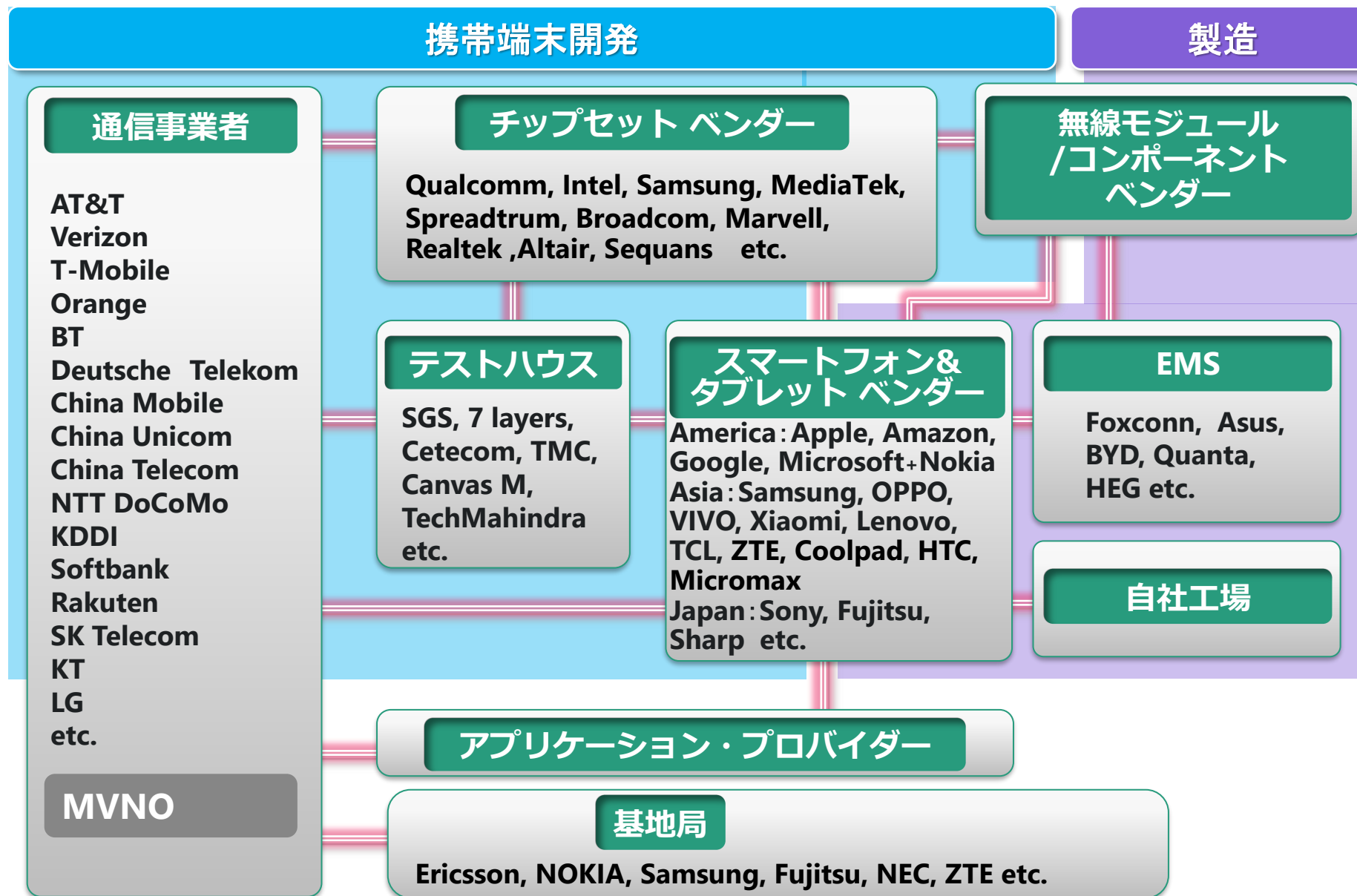
3-6. 5Gチップセット・端末開発用ソリューションMT8000Aの役割



3-7. 5Gテストソリューション コンフォーマンス(規格適合)試験

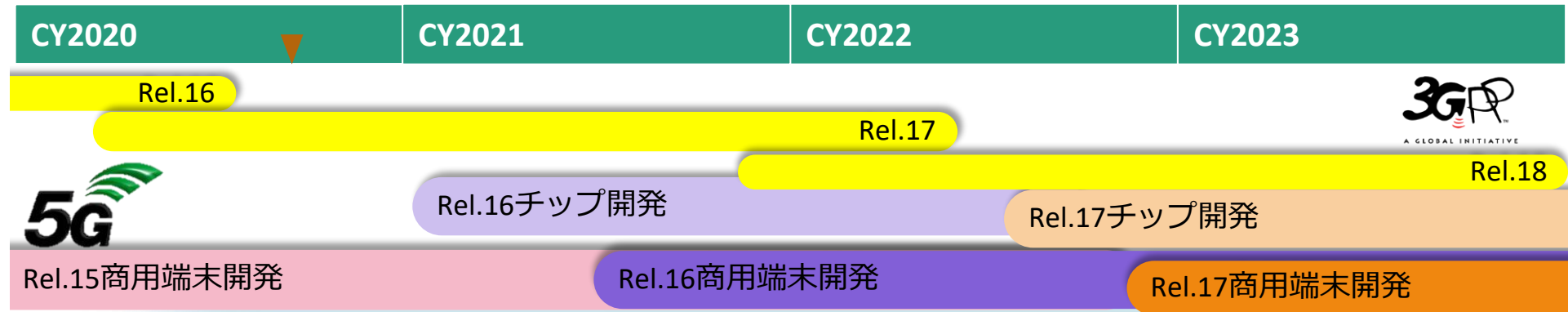


3-8. モバイル通信市場の業界構造



3-9. 5Gサービスのロードマップ

* 出所：一般公開情報を
参考に当社作成



3-10. Rel-16、Rel-17ダイジェスト

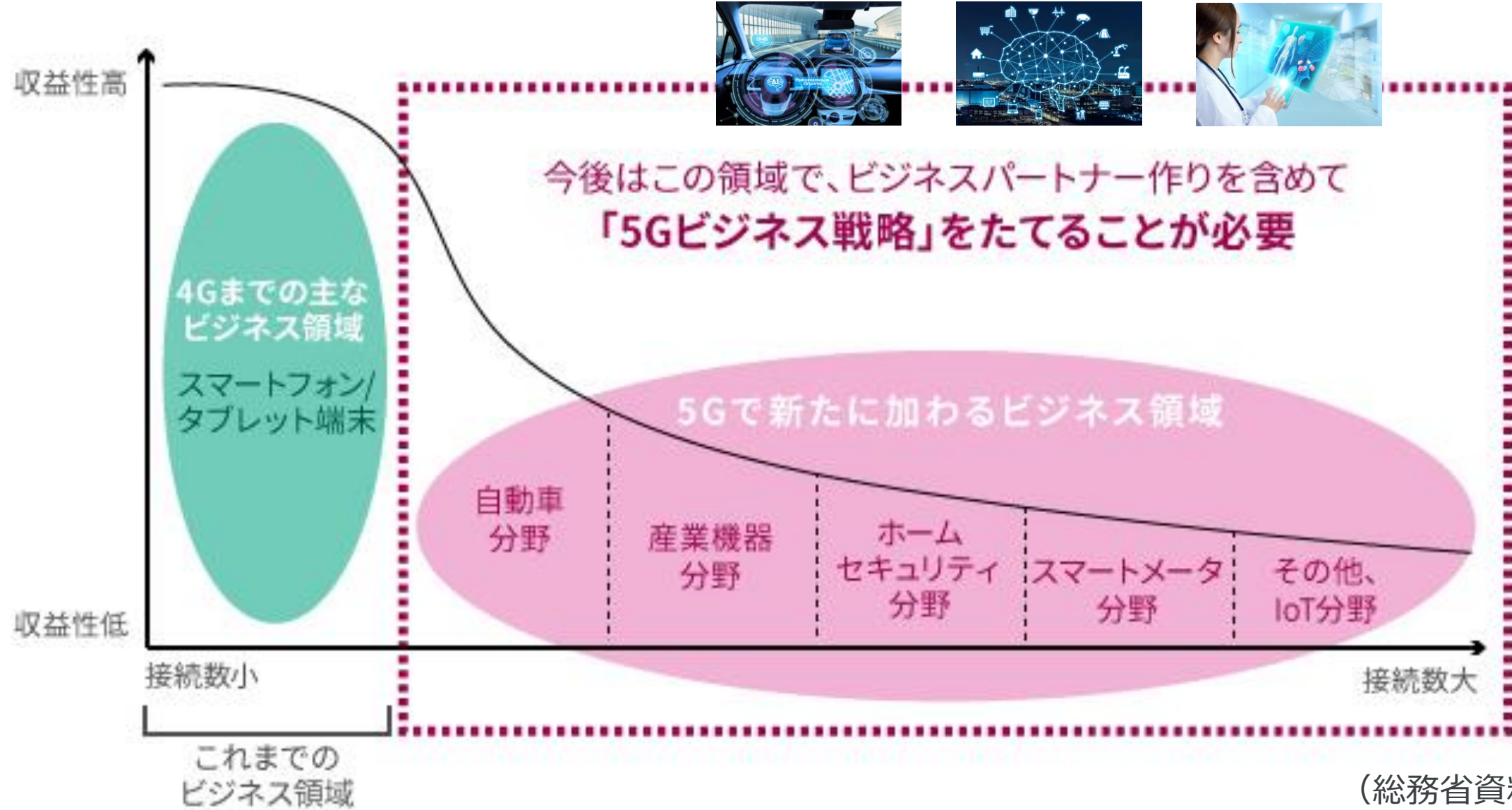
* 出所：一般公開情報を
参考に当社作成



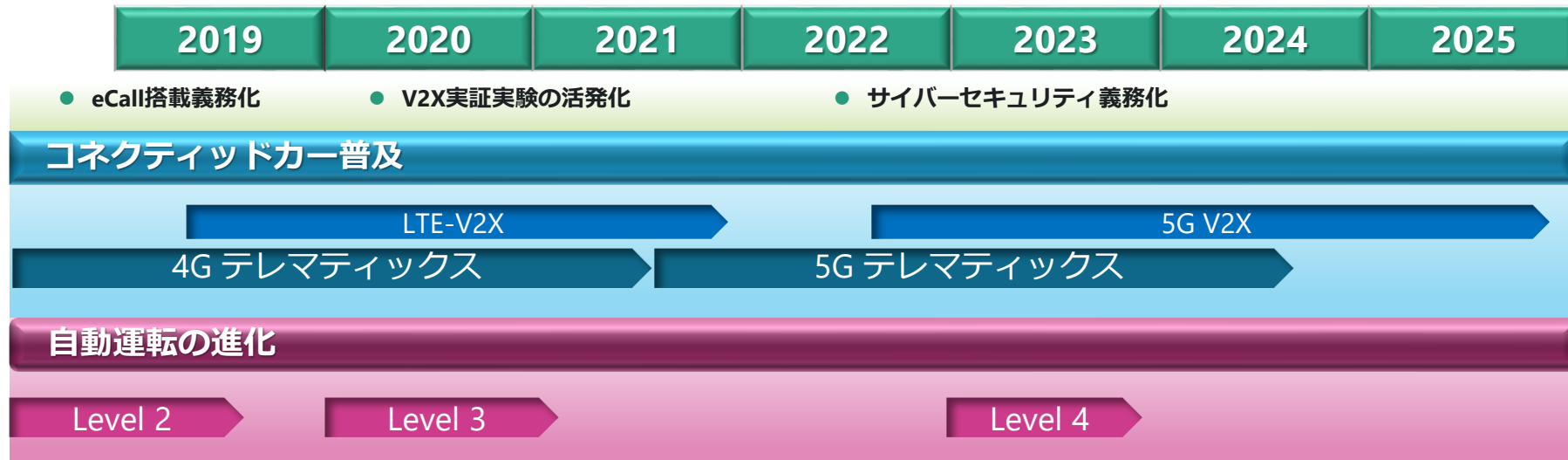
NR-U: NR-Unlicensed IAB: Integrated Access and Backhaul

*TSN (Time Sensitive Networking)：元々は、イーサネット通信において、時間の同期性を保証しリアルタイム性を確保できるようにしたネットワークの規格

3-11. 5Gは社会イノベーションのインフラとなる



3-12. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

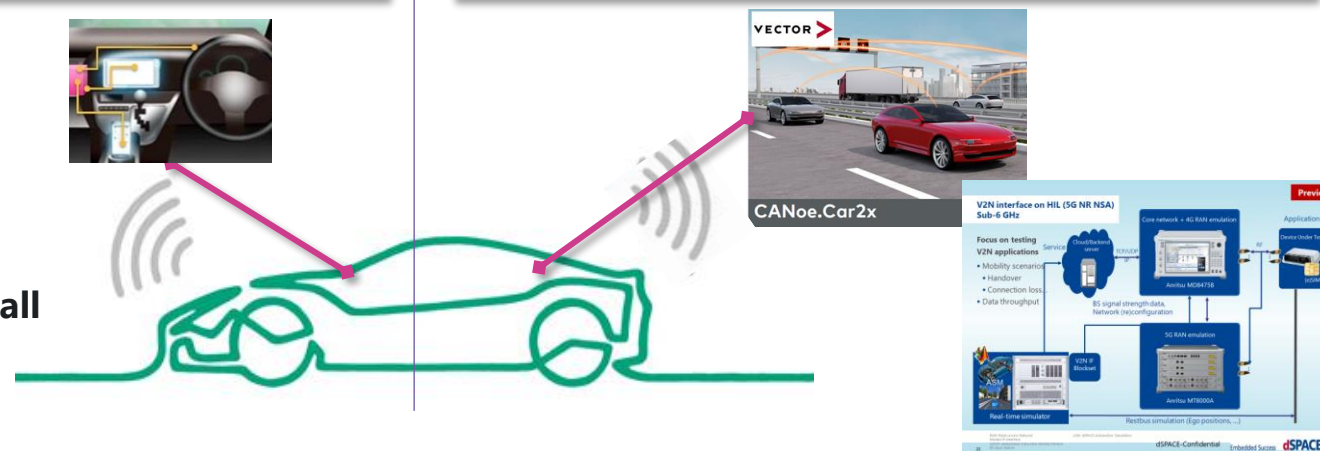


コネクティッドカー/ V2X ※ 車車間・路車間通信

モバイルネットワークシミュレータ

- UNR-144 (eCall), NG eCall
- Cyber Security
- V2X (802.11p, C-V2X)

自動運転に向けたHILSとの連携



3-13. プライベート5G

日本ではローカル5Gとして新たに導入され、海外ではプライベートLTEの発展形として期待される。



AGV: Automatic (Automated) guided Vehicle

引用：ローカル5G検討作業班 報告書骨子案 総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課

3-14. ローカル5G こんなところでアンリツが活躍

リモート操作の遅延測定

ロボットのリモート操作の為の遅延時間を測定



MT1000A ネットワークマスタ プロ

基地局性能試験や通信エリア測定

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ

基地局性能試験



MS2840A/50A シグナルアナライザ

電波干渉の測定

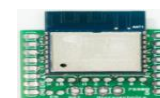
ローカル5Gエリアの重複による電波干渉を測定



MS2090A フィールドマスタ プロ

端末やセンサーモジュールの性能試験

端末やセンサーモジュールの無線特性、プロトコルを試験



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

5G NR基地局のフィールド性能測定やカバレッジマッピング

フィールドマスタプロ MS2090A

- 周波数範囲：9 kHz～9/14/20/26.5/32/43.5/54 GHzをサポート
- 5G基地局だけでなく、既存のGSM、LTEなどもサポート
5G復調にも対応
- 54 GHzまでの送信スプリアス測定



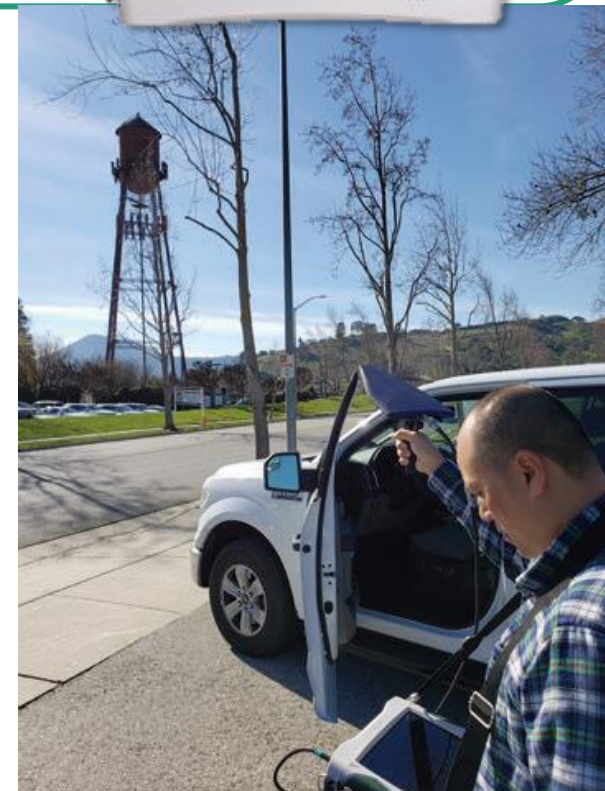
使用例：5G NR基地局測定

3GPP TS 38.104 V15準拠のgNB基地局パフォーマンス検証

- 周波数エラー・占有帯域幅
- タイムオフセット・隣接チャネル漏洩比
- セル/セクタID・12.75 GHzまでの送信機スプリアス
- 変調品質・EIRP
- 不要放射・同期信号ブロック（SSB）
- FR1、FR2双方に対応・最大64ビームに対応

使用例：5Gカバレッジマッピング

チャネルパワー、EIRP、またはRSRPを含むRFデータを連続測定し、特定の場所における5Gの信号強度を地図上に表示。測定結果をデジタルマップや建築物平面図にグラフ表示。



提供するサービス

シミュレーション解析サービス

- ・ローカル5Gのエリア設計に必要な電波伝搬シミュレーション
- ・干渉調整、エリア検証・設計のコンサルティング

測定サービス

- ・ローカル5G導入現場における、干渉評価、エリア実測、基地局性能評価、ネットワーク評価
- ・基地局設備や端末のベンチマーク支援

ラボ見学・利用サービス

- ・Anritsu 5G LABを活用し、ローカル5Gの活用方法や品質保証手法の理解を促進
- ・実際のローカル5G環境を利用した実証実験の環境と機会を提供

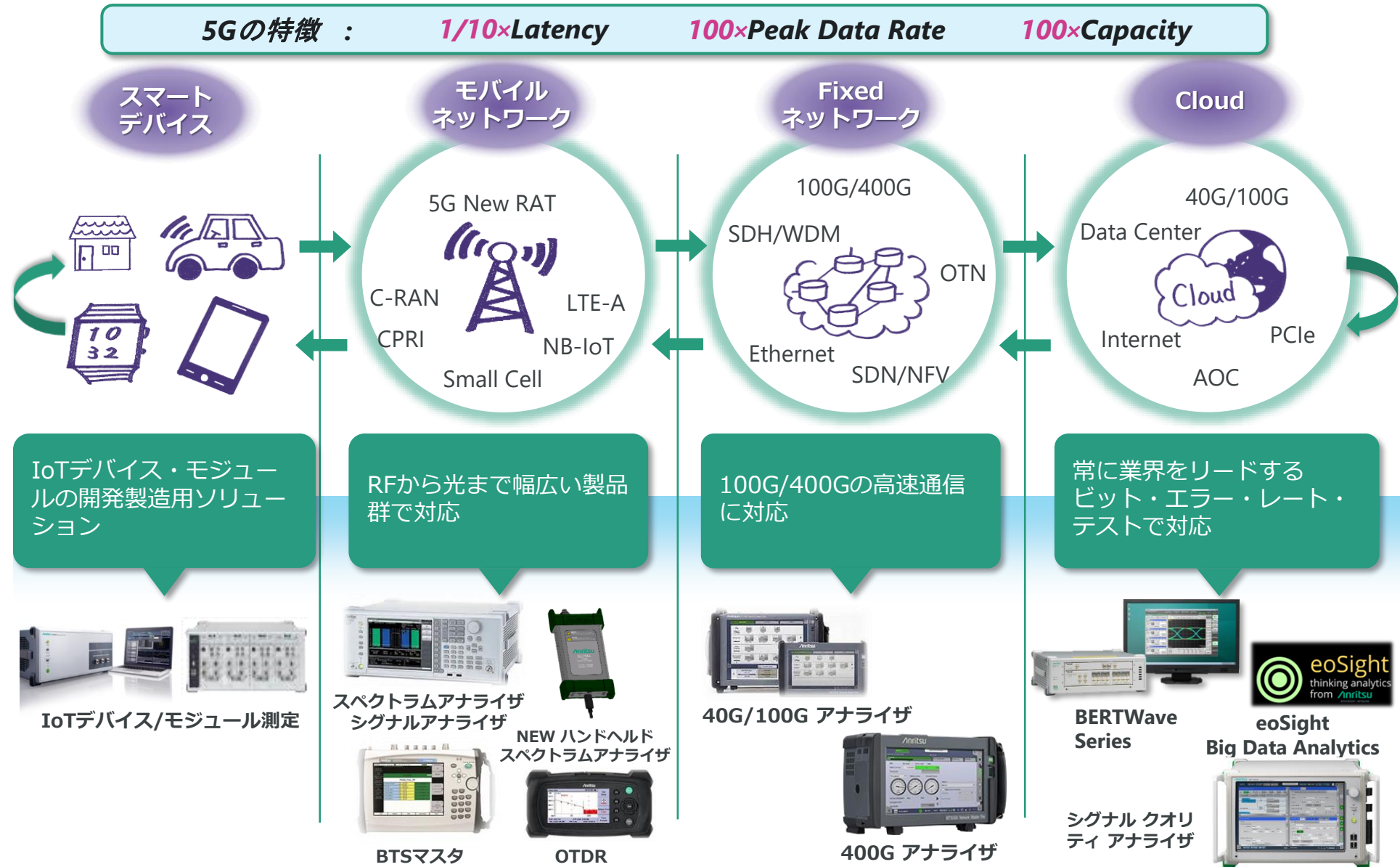
調印式



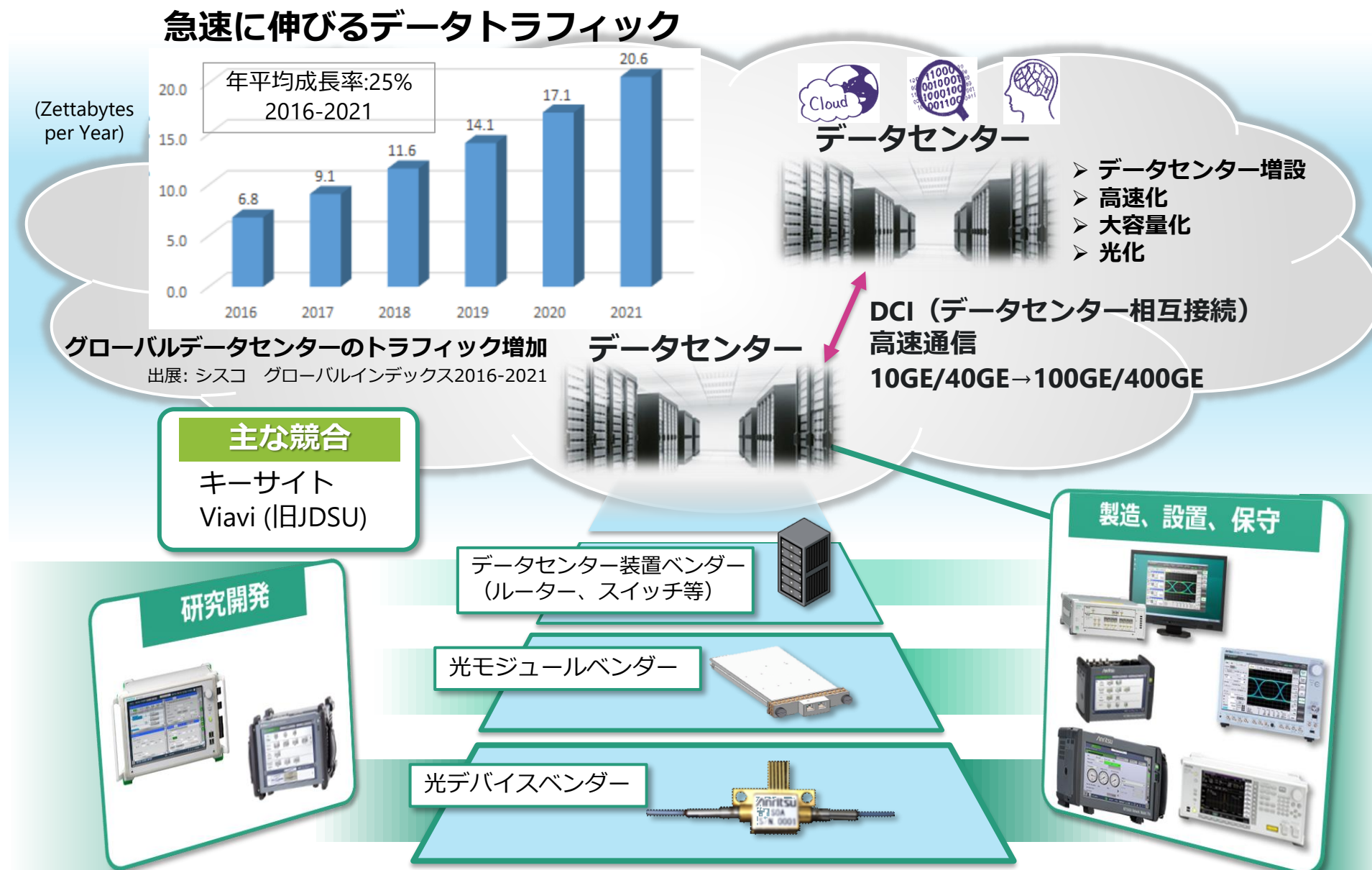
アンリツ株式会社
社長 濱田宏一

株式会社構造計画研究所
取締役会長 服部正太

3-17. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション



3-18. クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

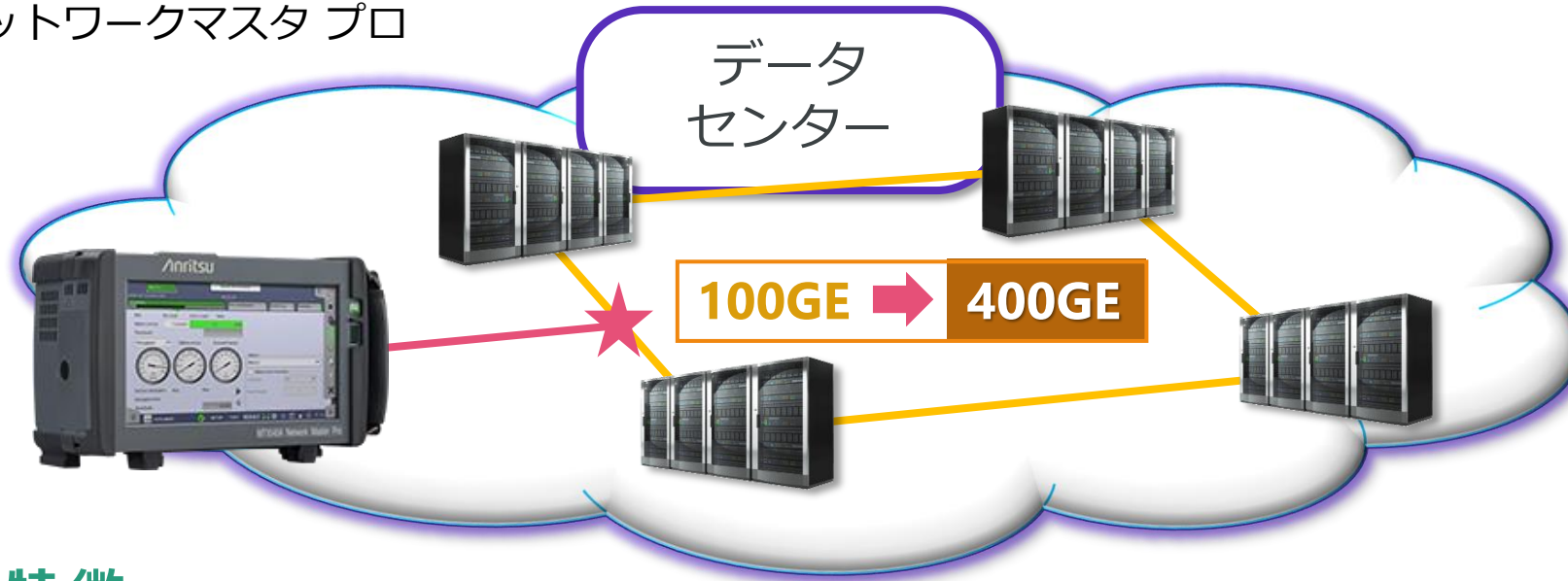


3-19. データセンターの高速化向けソリューション

400Gイーサネットに対応したポータブル測定器

MT1040A

ネットワークマスタ プロ



■ 特徴

データセンターの高速化の検証 100Gイーサネット → 400Gイーサネット

■ 対象市場

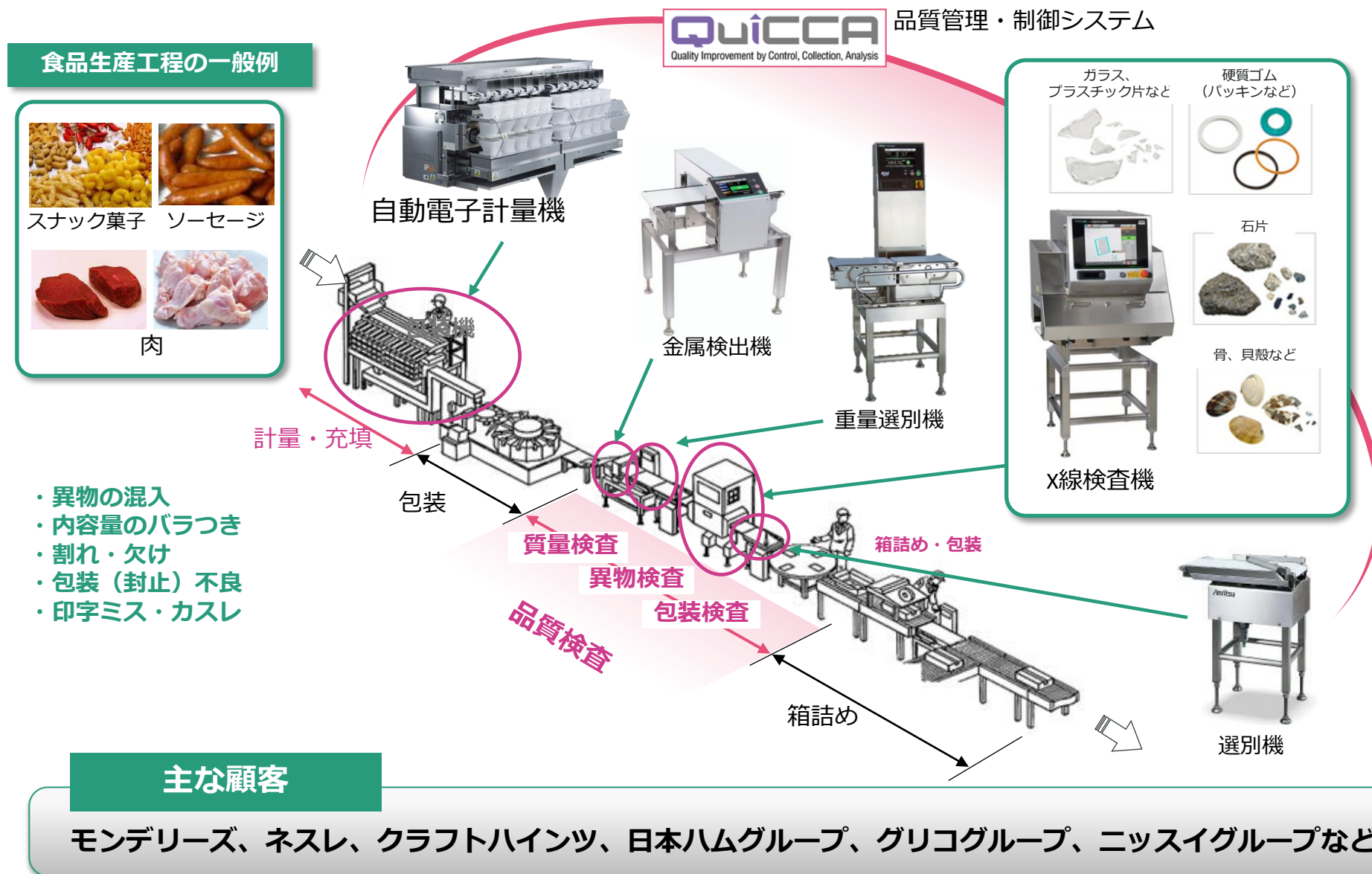
- ・ 通信ネットワーク、データセンター

■ 対象顧客

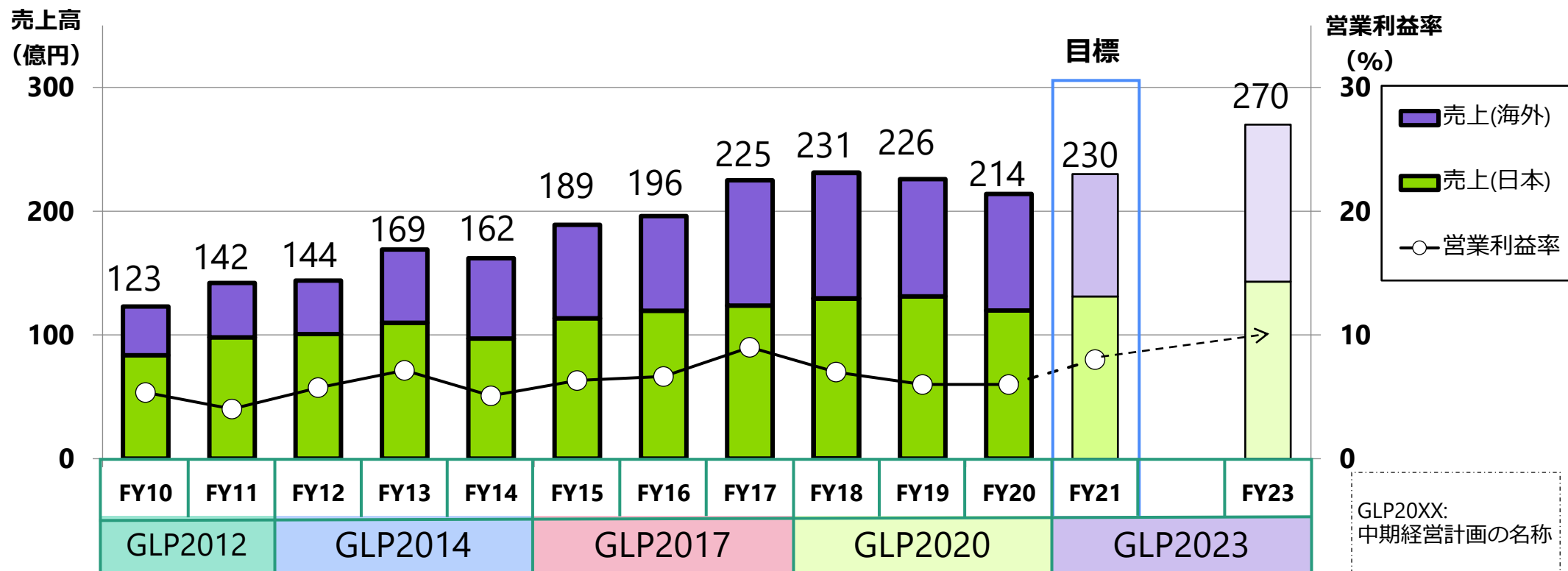
- ・ 通信事業者、通信ネットワーク工事会社、通信設備保守会社、ネットワーク機器ベンダ

4. PQA事業

4-1. PQA 事業 (Products Quality Assurance)



4-2. 成長するPQA事業



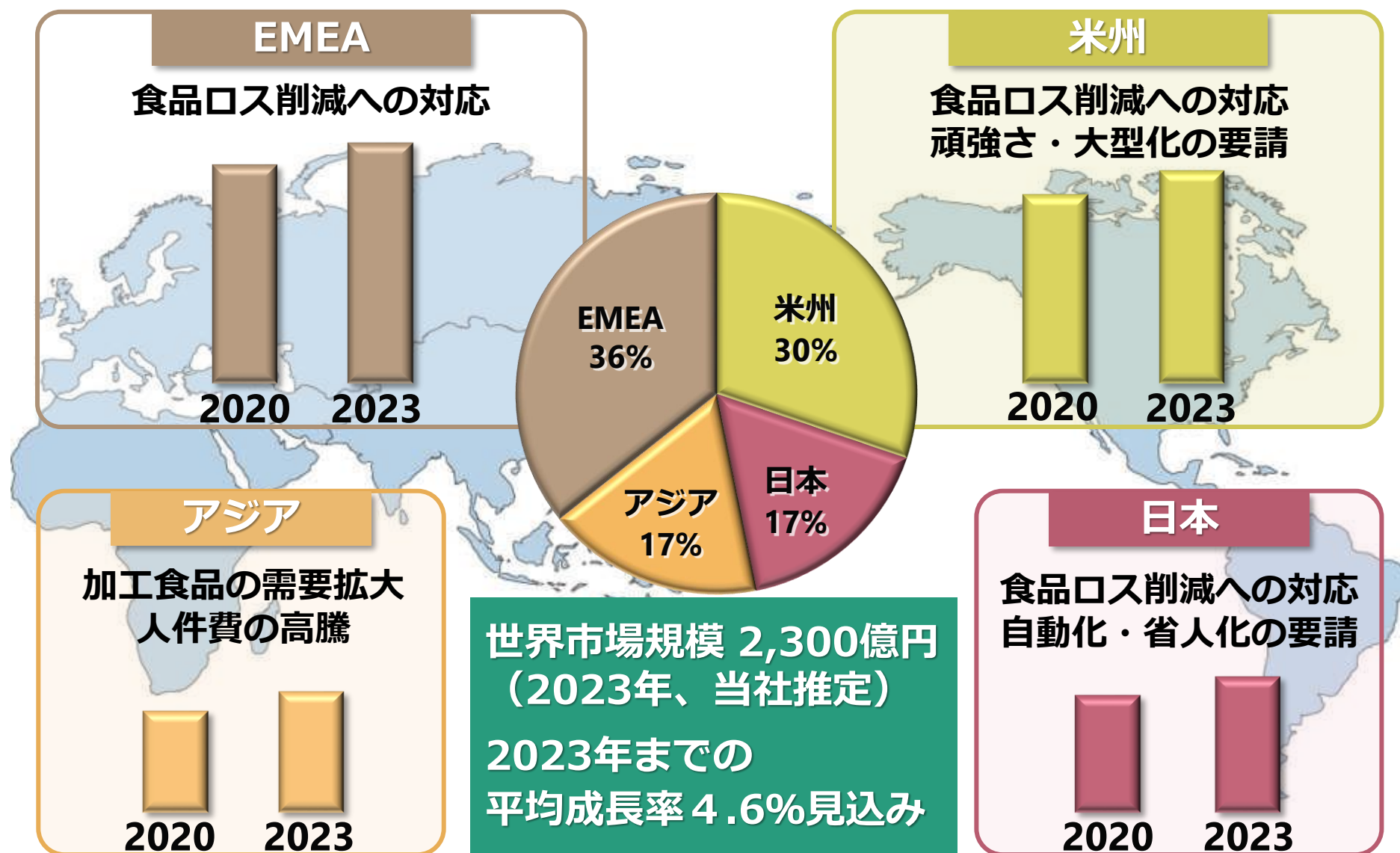
市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

メトラートレド、イシダ、マレル

(注) FY2023の計画：2021年4月27日に発表した公表値です。

4-3. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



4-4. 医薬品市場向けソリューション

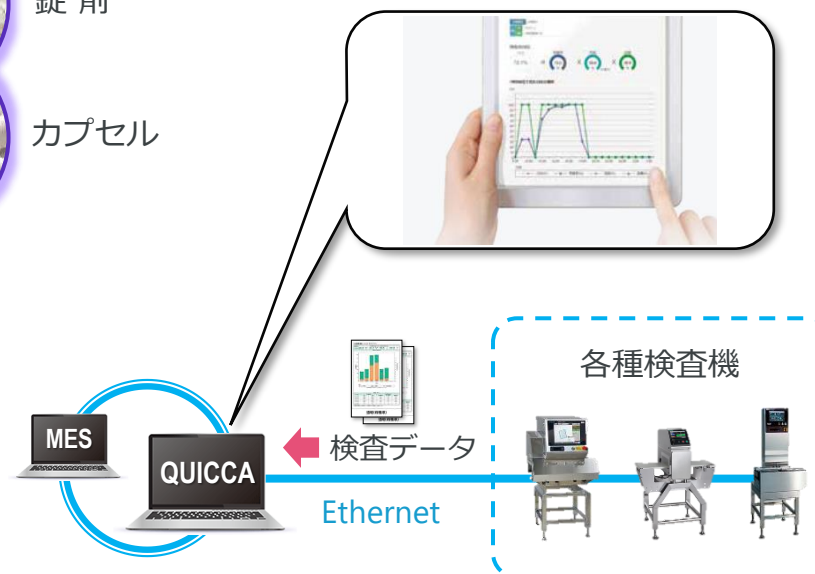
医薬品市場向け金属検出器

KDS1004PSW 錠剤・カプセル用金属検出機



Quicca Pharma

医薬品向け
総合品質管理/制御システム



■ 特徴

錠剤、カプセル内の金属異物を高感度に検出し、OK/NGを判定

- ・ 0.1mm以上の金属片を検出可能

■ 対象顧客

- ・ 製薬会社

5. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要

5-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比減収減益も通期予想に対する受注進捗は計画通り

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	290	281	△ 9	△ 3%
売上高	257	238	△ 19	△ 7%
営業利益	51	31	△ 20	△ 40%
税引前利益	51	31	△ 20	△ 40%
当期利益	35	21	△ 14	△ 41%
当期包括利益	37	23	△ 14	△ 37%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

5-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：5G開発需要は堅調に推移。一方で、半導体不足が売上に影響

▶ PQA：新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での売上が回復

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	193	168	△ 25	△ 13%
	営業利益	49	29	△ 20	△ 42%
PQA	売上高	44	51	7	16%
	営業利益	1	4	3	173%
その他	売上高	20	19	△ 1	△ 6%
	営業利益	2	0	△ 2	△ 75%
調整額	営業利益	△ 2	△ 2	0	-
合計	売上高	257	238	△ 19	△ 7%
	営業利益	51	31	△ 20	△ 40%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

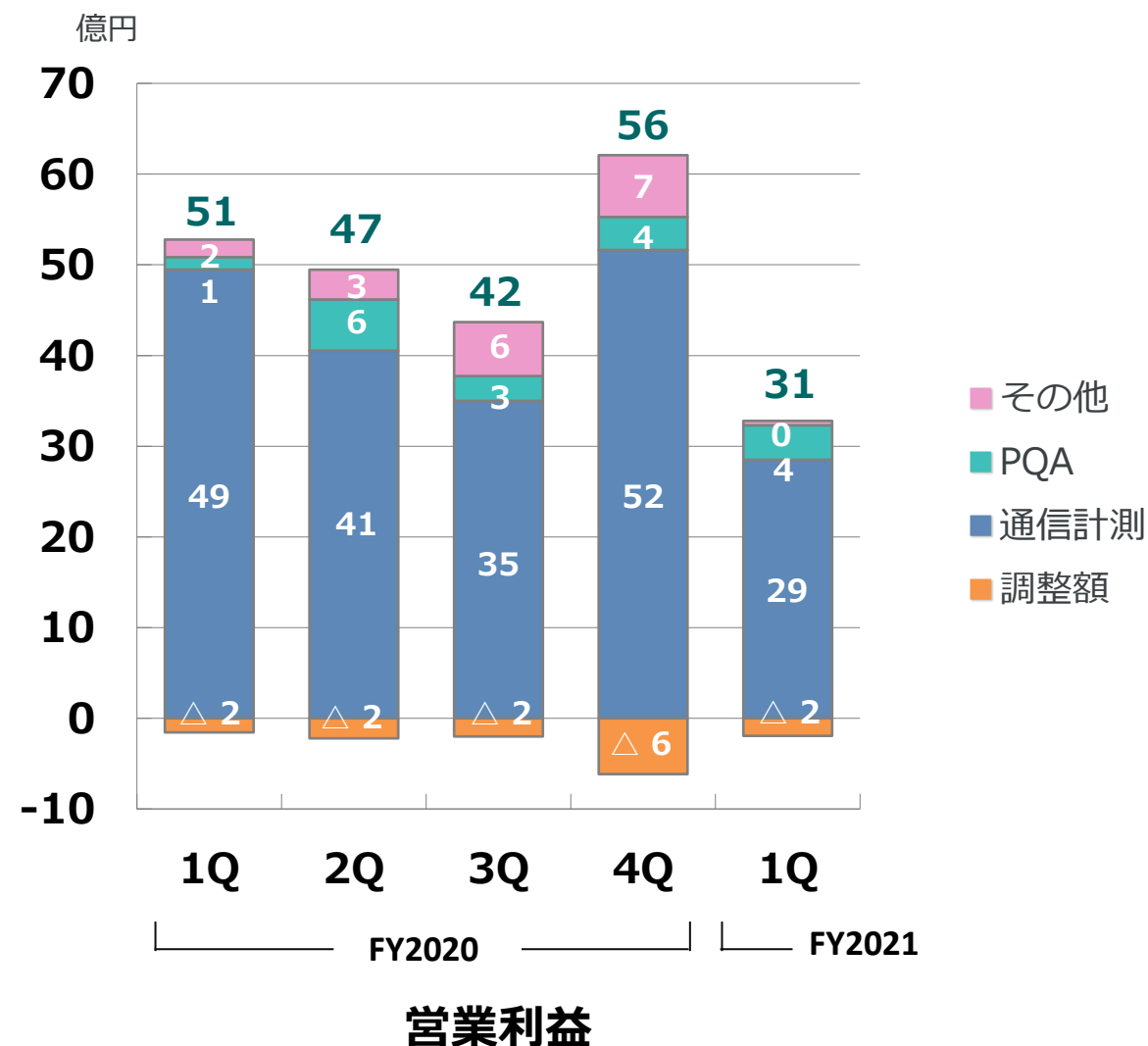
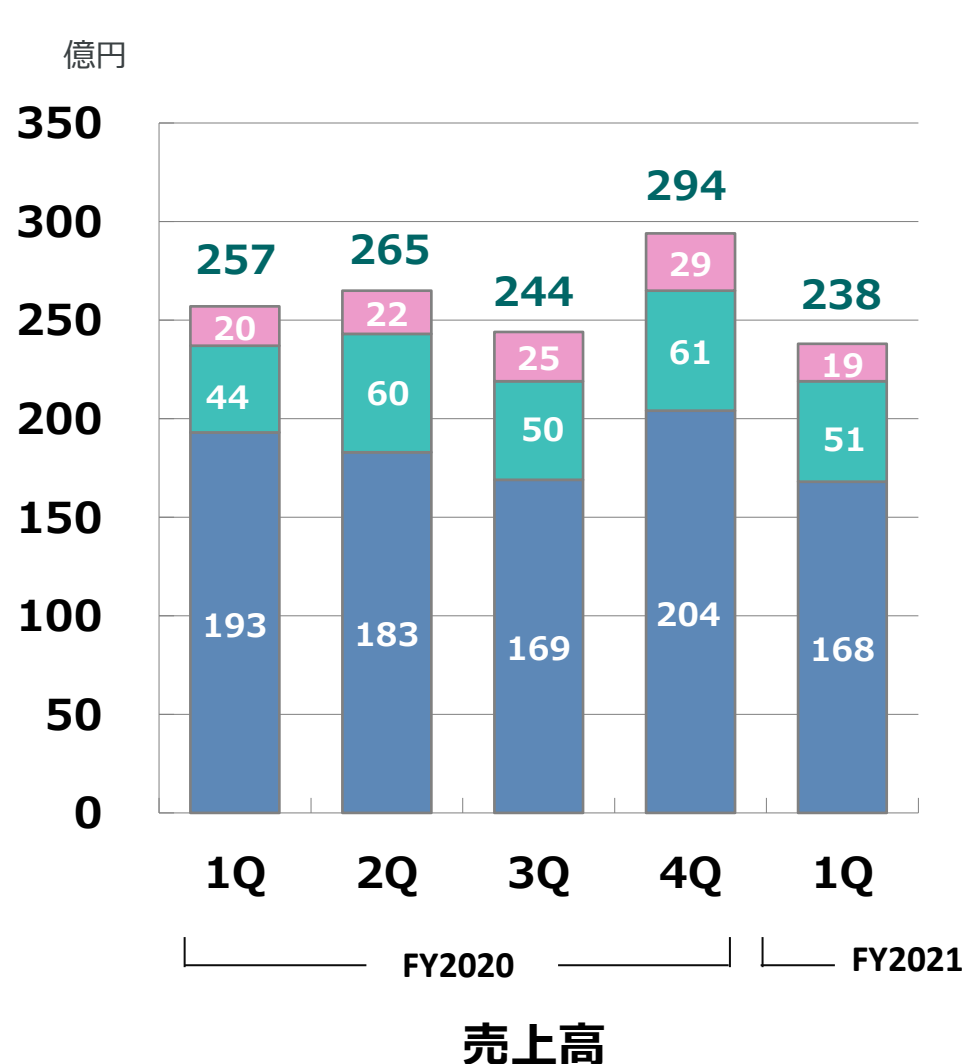
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業：旧T&M事業

PQA：Products Quality Assurance

5-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 13%，通信計測 17%，PQA 7%



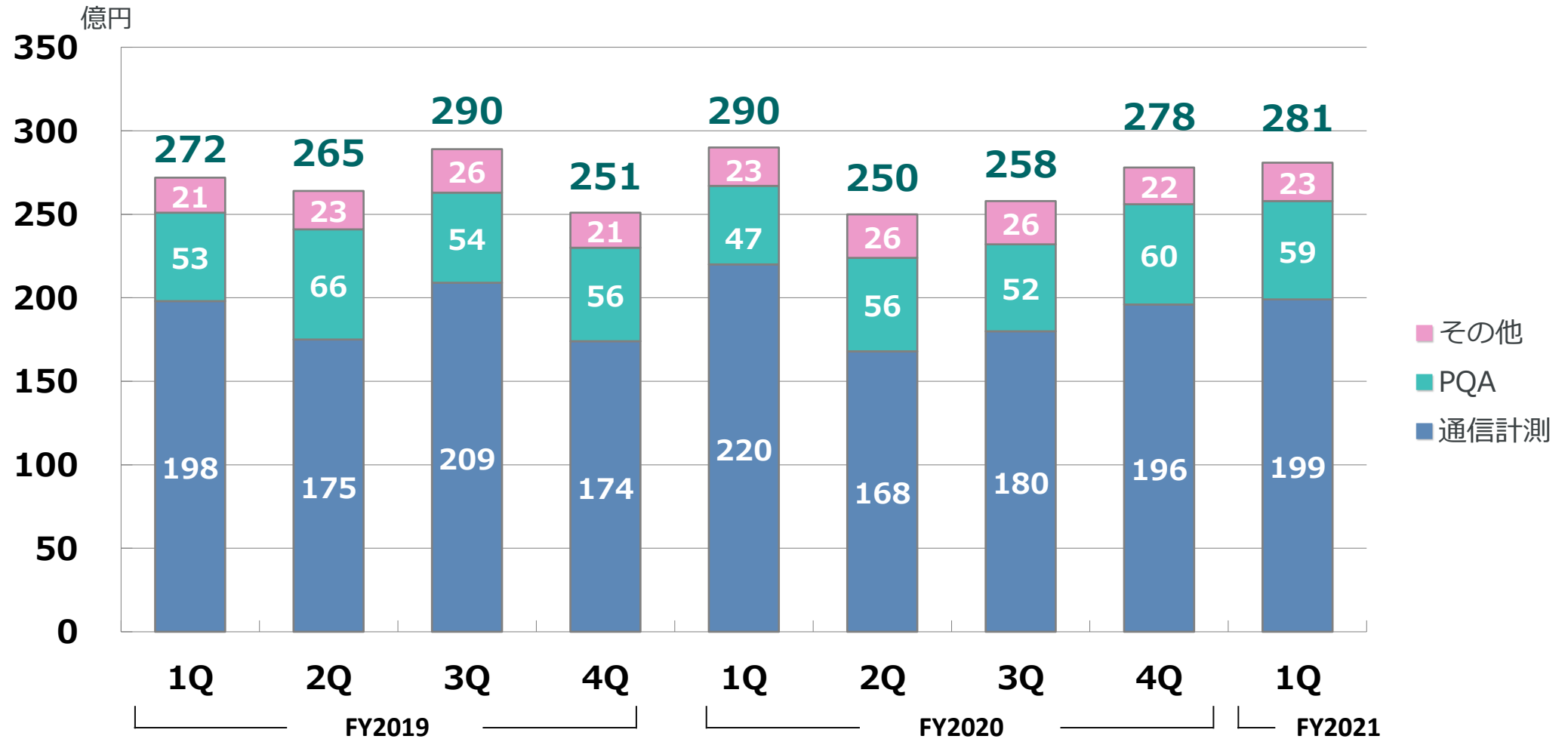
(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2022年3月期（4月-6月）の状況	
 通信計測：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資は堅調
アメリカ	今年後半からのSub6GHz（Cバンド）の基地局敷設による需要回復に期待
 PQA：アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域の需要が回復	

5-5. 受注高推移

▶ 通信計測：前年同期比10%減、前四半期比2%増

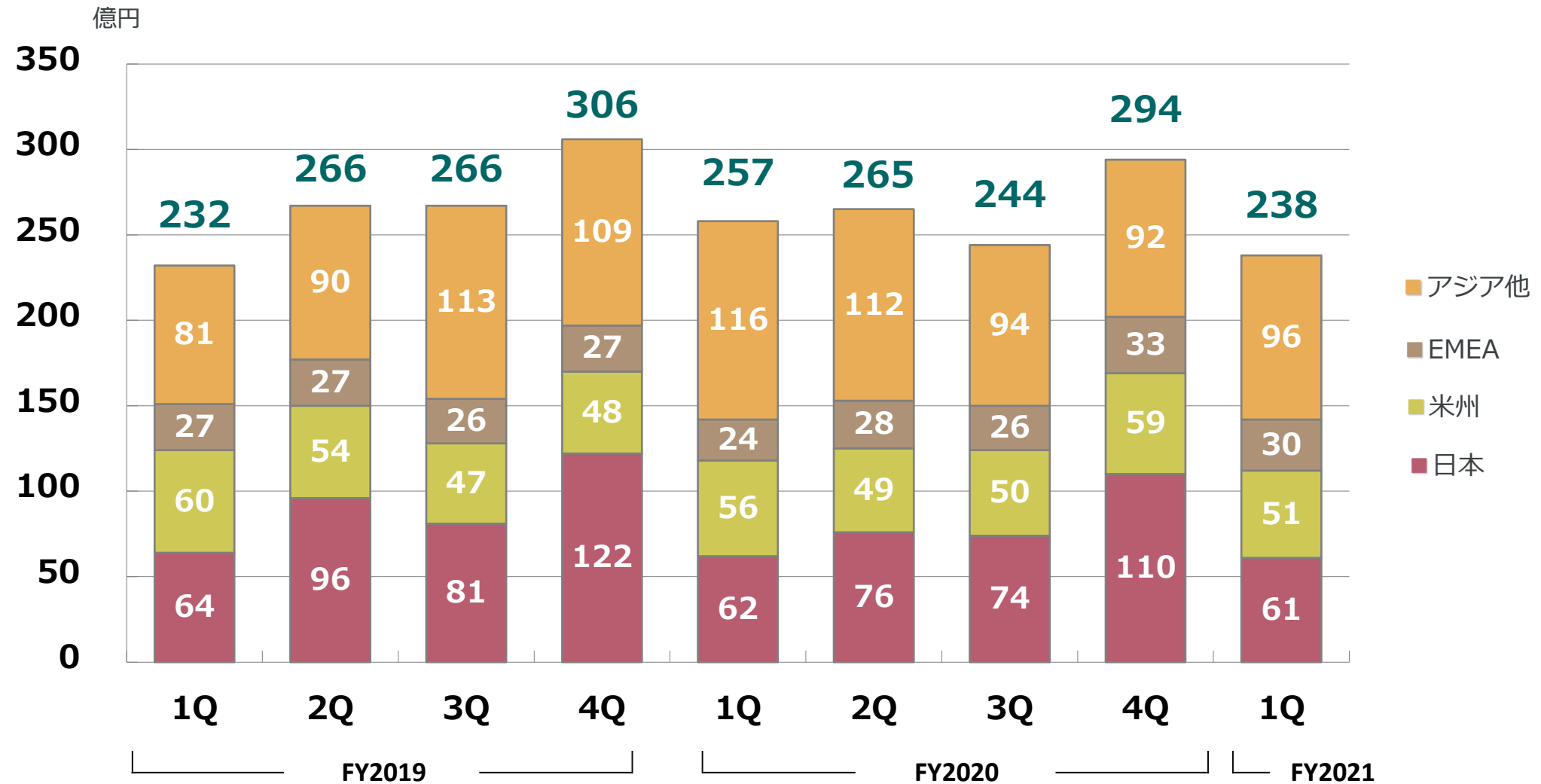
▶ PQA：前年同期比25%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

5-6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連の需要は引き続き堅調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

5-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率33.2%

FY2021 1Q

- ① 営業CF : 79億円
- ② 投資CF : △ 13億円
- ③ 財務CF : △ 36億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②) : 66 億円

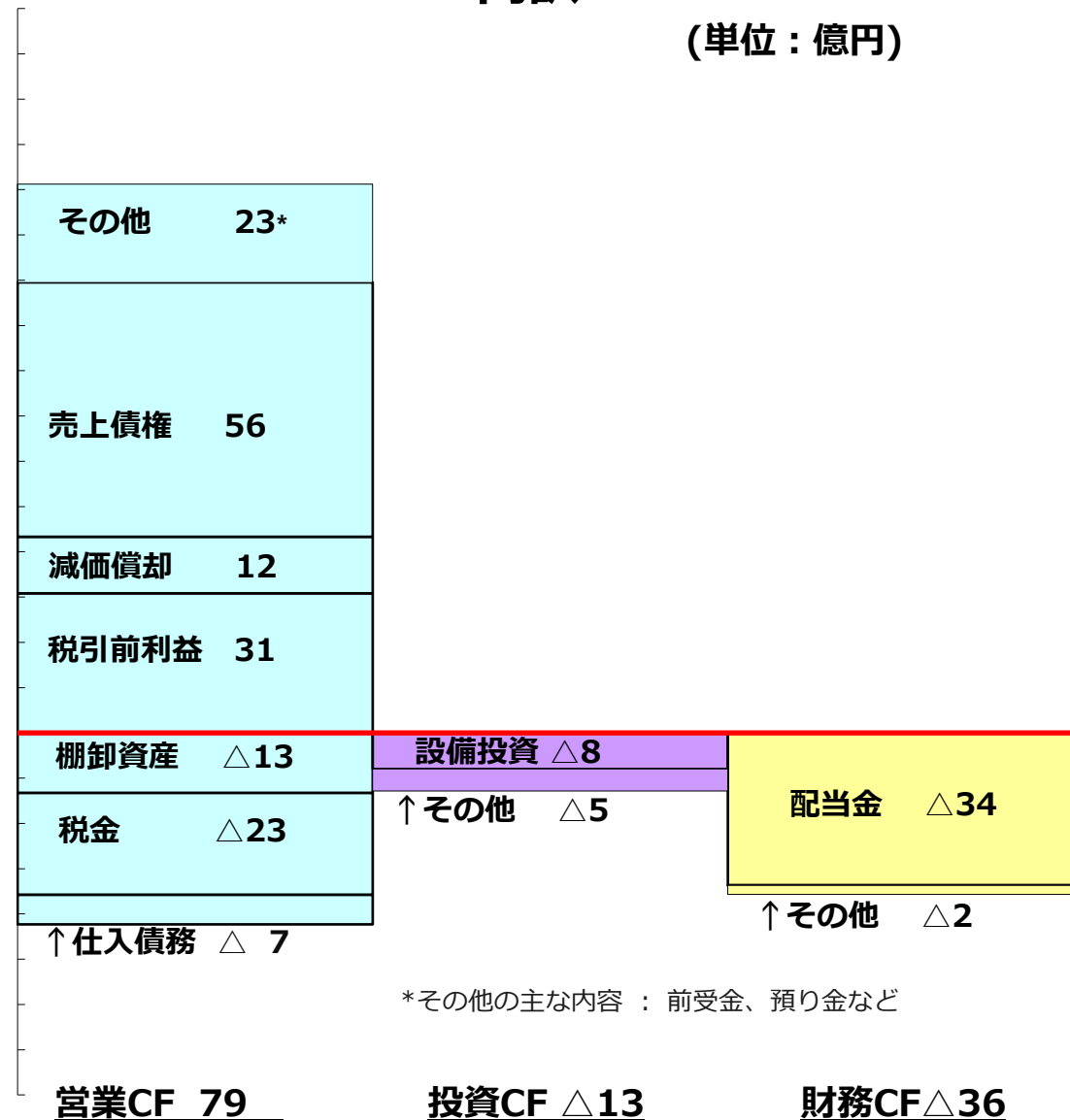
現金同等物期末残高
531億円

有利子負債高
58億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位 : 億円)



5-8. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月27日の公表値のとおり

（単位：億円）

			2021/3期	2022/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額
					前年同期比 増減率(%)
売上高			1,059	1,140	81
営業利益			197	205	8
税引前利益			198	205	7
当期利益			161	162	1
通信計測	売上高		748	820	72
	営業利益		177	185	8
PQA	売上高		214	230	16
	営業利益		13	18	5
その他	売上高		97	90	△ 7
	営業利益		18	12	△ 6
調整額	営業利益		△ 12	△ 10	2

（参考）FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円
FY21 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

5-9. 株主還元状況

自己株式の取得：

総額 50億円（上限）

株式総数 3,000,000株（上限）

取得期間 2021年8月2日 ~ 2022年3月31日

配当予定：

2022年3月期 年間 40円

